ロンブローゾ 犯罪人論

寺田精一著

368
21

國立國會圖書館藏

國立國會
23.9. 7
圖書館

0058

序

自分が犯罪並に犯罪人を研究して居る間に、この種の研究を以て其一生を貫いたロンブローゾの犯罪人論を、概括的に述べて見たいといふ考が時々起つた。けれども種々な方面を調べて行くにつれて、ロンブローゾの如き大學者の廣汎なる研究を、淺薄な自分の頭で纏めることの頗る大膽であり且容易でないことに心付き、遂に初めの計畫を變更して、ロンブローゾの愛嬢で、今は史學者フェレロ(Ferrero)の妻女であるジーナ(Gina Lombroso Ferrero)夫人の著「ロンブローゾの犯罪人」(Lombroso's Criminal Man, 1911)に、大體據ることにした。

ジーナ夫人が、この著述をなすに際して、父なるロンブローゾは、序文を書いて居る、これ恐らく其絶筆であつたらうといはれて居る。その序文の終に、

「娘ジーナが、正確と親切な注意とを以て、私の犯罪学の研究に關する概概を書いて呉れることは、喜びに堪えない。ジーナは、子供の頃から私の研究を助け、私の學問の基礎を築き上げて呉れ、疑惑と嘲笑と勝利との幾多を、私と共に分つた。若しこの娘の助がなかつたならば、私の學問の完成も、其根本學理の適用も、覺束なかつたであらう」と述べて居る。實にジーナ夫人は、幼時から父の研究に興味を持ち、自らも色々な業績を公にして居る。かく父と一所に研究をなし、父と同じやうな氣分と充分の理解とを有して居るジーナ夫人は、ロンブローゾの犯罪人に關する學説の大要を書くに、最も適した人といはねばならない。

そこで自分がこの犯罪人論を書くに於ても、その第二章乃至第六章は、大體ジーナ夫人の著書に據つた。けれども政事的犯罪者と婦人犯罪者との二節は別

に附加し、尙犯罪の原因の章に於ては、ロンブローゾの大著『犯罪人』第三卷に依つて多くの補足をなし、その他各章に於て、幾分の省略と添加とをなした部分は少くない。又章・節・項等の區分配列は、讀者の便の爲めに自分の考で行つた。次に初章と末章とは稍蛇足の感がないでもないが、ロンブローゾの學説を述べる上には、述べなければならぬことと信じたから、書き加へたのである。

若しこの書に依つて、近世に於ける犯罪人研究の刺戟となり又中心となつて居たロンブローゾの犯罪人に關する學説が、幾分か一般の人々に理解され、動もすれば世人から等閑視され勝ちの我邦現時の刑事政策に關して、多少の注意と興味とを促すことが出來れば、著者の滿足のこれに過ぎたものはないのである。

大正六年夏

寺田精一識

ロンブローゾ犯罪人論目次

第一章　緒論……一

第一節　ロンブローゾの略傳竝に業績……一

第二節　ロンブローゾの先進者……一九

第三節　刑事學とロンブローゾの犯罪人研究……二四

第二章　犯罪者各論……三五

第一節　生來性犯罪者……三五

一　生來性犯罪者の身的異常……三五

頭三六――顔三七――眼三八――耳三八――鼻三九――口三九――

頬髭三九――口髭四〇――顎四〇――鬚四一――毛髮四

——胸廓四一——腰・骨盤四二——上肢四二——下肢四三——體
體四三 ……四五

二　生來性犯罪者の感覺的並に機能的異常

一般感覺四六——痛覺四六——觸覺四六——磁氣に對する感覺四七
——天候に對する感覺四七——視力四七——聽覺・視覺・味覺四七
——輕快四八——力量四八 ……四八

三　生來性犯罪者の心理

(一)自然的情緒四九——(二)道德心四九——後悔五〇——高慢・虛榮心五三——衝動性五三——復讐心五五——殘酷五五——怠惰五六
——射倖心五七——宗教的感情五八——(三)知能五八——知識五九
——隱語六〇——繪六一——文身六三 ……六七

四　犯罪人型と普通人

兩者の相違六七——藝術家の犯罪人觀六八——俚諺に現はれた犯罪
者六九——普通人の觀察七〇——所謂犯罪人型七一

第二節　悖德狂者 ……七三

悖德狂者と生來性犯罪者並に精神病者七三——實例七五

第三節　癲癇性犯罪者 ……八〇

癲癇性犯罪者と生來性犯罪者並に悖德狂者八〇——癲癇の特徵八〇
——潛在性癲癇と犯罪八八——普通の癲癇と犯罪性癲癇九二——生來性犯罪者と癲癇性犯罪者九四

第四節　精神病性犯罪者 ……九六

一　一般的の精神病性犯罪者 ……九六

白痴九六——低能九七——幽鬱病九七——麻痺狂九七——癲狂九八
——パラグラ九九——思春期・月經時九九——偏執狂九九——精神病性犯罪者の特性一〇〇

二　特種的の精神病性犯罪者 ……一〇二

(二)酒精中毒一〇三——(一)時的中毒一〇三——慢性的中毒一〇四——酒精中毒に因る犯罪一〇七——(二)心的變態一一〇——特徴一一一——心的變態に因る犯罪一一二——(三)ヒステリー一一六——身的並に機能的特徴一一六——心的特徴一一七

第五節　偶發性犯罪者……一二三

境遇一二四——特徴一二五——實例一三一

一　習慣性犯罪者……一三四

特徴一三五——實例一三五

二　法律的犯罪者……一三九

無意識の犯罪一三九——社會に危害なき犯罪一四〇——特徴一四一——法律を知らずして行ふ犯罪一四二

第六節　感情性犯罪者……一四三

特質一四三——特徴一四四

第七節　政治的犯罪者……一四八

原因一四八——社會的傳習の反抗者一五二——指導者一五四——特質一五五

第八節　女性犯罪者……一五六

生物的觀察一五七——特徴一五八——男性犯罪と女性犯罪との相違一五九

第三章　犯罪の原因……一六六

第一節　犯罪の隔世遺傳的原因……一六六

一　言語に關しての觀察……一六六

二　未開人に關しての觀察……一六八

子殺一六八——貞操一六九——物盜一七〇

三　兒童に關しての觀察……一七三

無教育と犯罪性一七三——幼年期と犯罪性一七四——兒童と德性一七六
四　犯罪者と隔世遺傳……一七八
犯罪者と兒童竝に未開人一七八——犯罪者と隔世遺傳者一七九
第二節　犯罪の病理學的原因……一八一
一　間接遺傳……一八一
二　直接遺傳……一八三
三　種族……一八四
四　病症外傷中毒……一八五
病症と外傷一八五——中毒一八六
第三節　犯罪の社會的原因其他……一八九
一　文明の程度……一八九

文明と野蠻一八九——人の集中一九一——印刷物一九二——新犯罪一九二
二　教育……一九三
教育の必要一九三——私生兒・孤兒一九三——惡例の影響一九四——學校教育一九四
三　氣象……一九五
高溫度と犯罪一九五——低溫度と犯罪一九七
四　人口の密度……一九八
移住一九九——都市と田舍二〇一
五　模倣……二〇一
六　獄中生活……二〇三
七　職業……二〇五

職業別と犯罪者數二〇六——婦人の職業と犯罪二〇八——兵士と犯罪二〇九——勞働に對する厭惡二一〇

八　經濟狀態……二一一

食料品二一二——貧困と富有二一四

九　男女……二一八

十　年齡……二一九

第四章　犯罪の豫防治療竝に防壓……二二三

刑罰の不完全二二三——近世刑事學の目的二二五

第一節　犯罪の豫防……二二七

一　貧兒の保護……二二七

保護の必要二二七——ドン・ボスコの事業二二八——バーナードの事業二三〇

二　貧窮成年者の保護……二三二

保護の必要二三二——亞米利加の救世軍の事業二三二

第二節　犯罪の治療竝に防壓……二三五

一　少年犯罪者……二三六

特別處遇の必要二三六——亞米利加の監督制度・少年裁判所二三八

二　女性犯罪者……二三九

特別處遇の必要二三九——モルトンの事業二四二

三　感情性犯罪者、偶發性犯罪者、微罪者……二四四

感情性犯罪者二四四——偶發性犯罪者二四五——微罪者二四五——監督制度二四六——體刑二四九——罰金二四九——賠償二五〇——感化院二五〇——懲治監二五二

四　習慣性犯罪者……二五六

アエグスティイルスの國立監獄二五六——刑罰移民二五八
五　生來性犯罪者並に悖德狂者……二六〇
特別處遇の必要二六〇——英國の收容所二六〇——死刑二六二
六　犯罪者と其處遇の關係表……二六三
第五章　犯罪者の調査……二六八
第一節　心的方面の調査……二六八
境遇二六八——季節二六九——年齡二六九——知識二七〇——感情二七〇——病的現象二七一——言語二七二——記憶二七三——手蹟二七四——服裝二七六
第二節　身的方面の調査……二七六
皮膚二七六——文身二七七——皺二七七——毛髮二七八——齒二七九——耳二八〇——眉及び眼二八〇——顎及び頤二八〇——身體の大さ二八一——體重二八一——頭二八一——顏二八四——手足二八四——異質と身的特徵二八四
第三節　感覺の調査……二八五
觸覺二八六——痛覺二八六——壓覺二八七——溫覺二八七——位置の感覺二八七——金屬に對する感覺二八七——視覺二八八——聽覺二八九——嗅覺二八九——味覺二八九
第四節　運動其他の調査……二九〇
運動二九〇——筋力二九一——皮膚の反射運動二九一——瞳孔の調整二九二——腱反射二九二——尿・屎二九二
第五節　犯罪者の人類學的調査表……二九三
第六章　刑事人類學の應用……二九八
第一節　精神病者と其模倣者……二九八

一　精神病に因る行爲の特徴……二九八
白痴二九八——低能二九九——幽鬱病二九九——偏執狂二九九——麻痺狂二九九——ヒステリー三〇〇——躁鬱病三〇〇
二　精神病を假裝せる行爲の特徴……三〇〇
一般的注意點三〇〇——顯癲の假裝三〇一——ヒステリーの假裝三〇二——罪質と精神病三〇二
第二節　刑事人類學的調査と懸疑者……三〇三
一　懸疑者が無罪となりし例……三〇三
二　悖德狂並に痴呆假裝の例……三一〇
三　精神異常者並に犯罪性偏執狂者の例……三一三
第七章　餘論……三一八
第一節　犯罪人論に對する批評……三一八
精神病學的方面の批評三一八——社會學的方面の批評三二二——科學的方面の批評三二五——哲學的方面の批評三二六——最近の批評三二八——今日の刑事人類學三三〇——犯罪者の分類三三二——觀察の相違三三三
第二節　犯罪人論の影響……三三五
昔の刑罰論三三五——現代の刑罰論三三六——一般の刑事學に及ぼした影響三三七——結論三四〇

目次終

ロンブローゾ犯罪人論

文學士　寺田精一著

第一章　緒論

第一節　ロンブローゾの略傳竝に業績

其家系と幼年時代　チェーザレ、ロンブローゾ(Cesare Lombroso)は西暦一八三六年十一月六日伊太利ヴェネチヤ州のヴェローナ市に生れた。其家系は昔から多くの學者を出した家で、何れも意志の堅固な忍耐力の强い人々であつたといはれて居る。其母の家は、伊太利の北部なるヴェネチヤ、ロンバルディヤ等の

諸州が、當時墺太利の配下にあつたのを憤慨して革命運動を起した家である。當時の愛國者は常に此母の家に集つて、熱烈なる談話を交換し、種々陰謀を回らしたものである。かくて遂に一八四八年にはヴェネチヤとマイランズに革命が起つて、墺太利に向ひ反旗を翻すに至つた。當時此事に組した青年の中には、ロンブローゾが竹馬の友も少くなかつた。かゝる家に生れて家庭の善良な感化を受け、かゝる時に人となつて革命的騒亂から深い印象を受けたロンブローゾは、後年自己の所論に對して劇烈なる反駁あるに拘らず、確固不拔の信念を以て其偉大なる業績を成就し、恰も學界に於ける革命をなしたるが如き觀あるは、蓋偶然のことでないといふてよい。加ふるにロンブローゾは幼時から天才を以て目せられ、特に哲學及び歴史を好み、十二歳の時既に希臘語、拉典語を以て會話し又、希臘羅馬の歴史家、文學家なるサルルスティウス（Sallustius）、ティッス（Titus）、リヴィウス（Livius）、タチィッス（Tacitus）等の著書を渉獵し、十四歳に及んで羅馬の興亡（Gella Grandezza e la Decadenza di Roma）を著して世人を驚嘆せしめ、其後醫者で且言語學者であつたマルゾーロ（Marzolo）を師として、カルテージ語、古代希臘語、ヘブリュー語及び支那語を研究するに至つた。此時一つの興味ある逸話として傳はつて居ることがある。それは一八五〇年にマルゾーロが或著述をしたのに對して、多くの新聞雜誌等は何れも批評を加へたが、而も著者を滿足せしむるやうなものは一つも發表されなかつた。然るにヴェロートナの一小雜誌に匿名を以て掲載された批評のみは、頗る眞意を得たものであつたから、これこそ知名の學者の批評に相違ないと信じ、窃に其執筆者を搜して見ると、思ひ掛けもなく當時漸く十五歳であつたロンブローゾの批評であつた。それ以來此師弟は極めて親密な間柄となつて、互に相敬愛して交際

したといふことである。

學生時代　ロンブローゾはヴェローナの中學校へ入學したが、其頃はヴェローナが未だ墺太利の勢力の下にあつたから、墺太利の學制に從ふのを心よしとしないで、寧に伊太利の哲學者ヴィコ（Vico,1668-1744）の著書を耽讀し、殊に其學說たる萬有學と哲學との關係を結合し、生物の發育と人類社會の組織との間には、多くの密接な關係があるといふ點に、深い印象を受けた。

醫學に志すに至つたのは、一八五三年であつて、先づトリノ（Torino）大學に入り、次いで一八五六年にパヴィヤ（Pavia）大學に轉じ、解剖學者パニザーの指導を受けた。爾後數年間を專ら佛蘭西の實證學、獨逸の唯物論、英國の進化論等に興味を持ち、此方面に關する著書を愛讀し、精神病學の方面に於ではヒナルギー、グリーズンゲル、エスクイロル等の著書を研究した。かくて更はヴィン

大學に轉じた。當時ヴィン大學には病理學に於て有名なるロキタンスキー、臨床家にして打診法並に聽診法の始祖であるスコーダ等の大學者が居つたから、醫學の研究には益興味を以て進むを得た。殊にロンブローゾはスコーダの感化を受けたことが多大であつた。一八五八年には、遂にヴィン大學の卒業試問を受け、學士となつた。此ヴィンに居つた頃から、特に精神病學に興味を感ずるやうになつて、未だ卒業しない中に二三の著述を試みた位である。

當時は恰も伯林大學にウィルヒョーが居つて細胞病理學を唱へ出し、從來の體液病理學が覆つた頃で、醫學に關する新しい科學的の研究は、獨逸及び墺太利の學界から頻々として發表された。其ウィルヒローの初めての書物をロンブローゾはヴィンに居る時に讀んだといふことである。かゝる間にあつて研究に餘念のなかつたロンブローゾは、もはや當時の伊太利の學風を以て新時代から後

れたものと見做し、伊太利に歸つてからも大に獨逸並に墺太利に於ける學說の旗吹に努めたのである。其爲めに後年大學の教授となつてからも、他の伊太利の醫學者から種々反對されたようである。

軍醫時代　偶〻一八五九年に伊太利と墺太利とが干戈を交ふるに至つて、ロンブローゾは軍醫として出陣することになつた。戰役中に得た醫學上の實驗には、種々注意すべきものがあつたので、それを基礎として「切斷論」(Memoria sulle Amputazioni) を發表し、ヴィン大學の懸賞を得た。

ロンブローゾが初めに行つた精神病の特殊な研究は、瑞西や北伊太利の山地に存するクレティニスム(Cretinismus)といふ白痴類似の精神病であつて、患者を尺度と衡器とを以て身體上の測定を誌み、之を北伊太利の普通人にも亦應用して、伊太利に於ける人類學的地文に關する見解を發表した。此頃又進化論的

の見解から『白人と有色人』(L'uomo bianco e l'uomo di colore) なる著書を發表した。これは丁度ダーヴィン (Charles Darwin, 1809-1882) が『種の起原論』(Origin of Species) を出した頃である。或人の說に依ると兩者の學說が相符合したのであるといひ、又他の人の說に依ると、セレシュットやダーヴィンの著書が伊太利に入つてから、最初に之れをロンブローゾが飜譯したといつて居る。何れの說を眞實とすべきかは今遽に決定されないが、兎に角ダーヴィンの如き思想を自ら有して居つたのか、又ダーヴィンの學說を贊し其學說を基礎として、此著書を公にしたのであらう。

一八六二年にロンブローゾは軍醫の職を有しながら、兼ねてパヴィヤ大學の精神病學並に法醫學の講師となつて、初めて自分の專攻科學の講義をする機會を得たのである。然し軍醫の職は其翌一八六三年に罷めることになつたので、

薄給な講師の境遇のことゝて、一時非常に生活に苦しんだ、其爲めに色々な外國書の飜譯などをして、生計を助けて居つたといふことである。

パヴイヤ時代ペザートロ時代　一八六四年に漸くパヴィヤ大學の教授となることが出來た。其爲めに生活費に顧慮する必要がなくなつて、專心研究に沒頭することが出來るやうになつた。此教授になつた時の開講演說が「天才と狂氣」(Genio e follia)といふ問題で、これは此年一つの著書として公にされ、頗る好評を博して、一八九四年迄に六版を出し、又多くの外國語に飜譯されるに至つた。此書物は後に增補され、「天才の人」(L'uomo di genio)として出版され、其二版は一八九四年に公にされて居る。

當時に於ける伊太利の諸大學の研究方法は、今日の所謂科學的方法でなかつたから、ロンブローゾは主に病理解剖的に研究し、殊に感覺機關が精神病者並

に犯罪者に如何に關係せるかを比較研究し、前にクレチニスムスの研究に用ゐた人類學的測定法を以て、精神病的犯罪者並に其他の犯罪者を研究し、犯罪者の頭蓋骨並に人相に付いては、大なる注意を以て調査した。されども又他面に於ては、精神病の臨床實驗並に神經病の實驗的研究は、少しも怠ることなく相並行して研究した。其結果は一八六五年に「精神病に關する臨床的研究」(Studii clinici sulle malattie mentali)なる著述となつた。

かくてロンブローゾは、尺度と衡器とに依る研究を重要視して、此調査から次第に進んで、精神病者と犯罪者との人類學を樹立したいといふ考を起し、益此方面の研究に努めた。而してかゝる點に思想の落ちついたのは、全くヴィコの哲學とモレショットの唯物論とダーヴィンの進化論とに依るといはねばならない。かゝる考を有して居つた時、丁度好都合な機會に接することが出來るや

うになつた。それは一八七〇年にアドリヤティック海に面したペザロ(Pesaro)といふ町の癲狂院の長として赴任するやうになつたことで、此地には一つの大監獄があつた、一年間在監者の精密なる研究をなし、大に此方面の材料が得られた。此年偶然にも或動物に固有な形態である中央後頭窩(Median occipital fossa)を犯罪人の頭蓋に於て發見し、是に大に力を得て犯罪の本態の如何なるものであるかの臆說を立つるに至つたのである。此年は又一方に於てはガロファロ(Garofalo)並にフェリ(Ferri)等が犯罪に關する論文を公にした年であつた。かくて一八七一年には犯罪人の人類學的の研究に關する一端を公にした。

一八七三年には『精神病に關する法醫學』(La medicina legale delle alienazioni mentali)なる一書を著した。

次いで一八七六年には再びパヴィヤ大學へ歸つて法醫學と衛生學を講じ、一

面に於ては犯罪者の研究を餘念なく續け、同年に其名著『犯罪人』(L'uomo delinquente)の第一版を公にした。尤も此時は其研究に供した材料も比較的に少かつたから、此著書も僅に二百五十二頁の小冊子に過ぎなかつた。

尙パヴィヤ在任中、ロンバルディヤ及びヴェネチヤ方面に多くあるペラグラといふ玉蜀黍の中毒症を研究して、學界に貢獻するところが多かつた。此研究の纒まつたものは、『ペラグラの概論並に臨床論』(Trattato profilattico e clinico della pellagra)として、一八九〇年にトリノで出版された。然るに玉蜀黍は此地方の主要食料であつて、農民・地主等には、玉蜀黍に中毒作用ありといふ學說は、經濟上大に關係のあることであるから、彼等は非常なる攻擊をなし、且官邊に於ても亦窃に反對の態度を採るに至つた。けれどもロンブローゾは、自說の誤なきを固守して更に屈せず、自費にて各地を遊說し、遂に世人をしてペラ

グラは眞に玉蜀黍の中毒にして、恐るべきものたることに服せしむるに至つた。かゝる不撓の意氣は、實にロンブローゾが晩年に至るまで、自己の學說に對して採つた態度の好適例である。

トリノ時代　一八七六年にトリノの大學へ轉ずることになつた。ロンブローゾが偉大なる業績は、此時代に完成されたのである。初めには法醫學のみの敎授であつたが、後には精神病學の敎授をも兼ねた。けれども一九〇四年には法醫學の敎授を辭して、專ら精神病學を講じて居つた。

トリノには未決囚を拘禁する大監獄があつて、ロンブローゾは其醫員を兼任して居つたから、毎年二百人宛の犯罪人を精細に研究するの機會が得られた。從つてこれ以後犯罪人に關する研究が頻々著述となつて公にされた。卽ち一八七九年には「伊太利に於ける犯罪の增加及び其逮捕の方法に就て」(Sull'incremento del delitto in Italia e mezzi per arrestarlo)を、一八八一年には「自殺及び犯罪に於ける戀愛」(L'amore nel suicidio e nel delitto)を、一八八五年には「犯罪人」を修補して其第二版を、一八八八年には「獄中の筆記」(Palimsesti del carcere)を公にし、更に一八九〇年にはラスキ(Laschi)と共に「法律及び刑事人類學との關係に於ける國事犯及び革命」(Il delitto politico e le rivoluzioni in rapporto al diritto, all'antropologia criminale)を、一八九三年にはフヰレロ(Ferrero)と共に「女性犯罪者、賣淫婦並に普通の婦人」(La donna delinquente, la prostituta e la donna normale)を、同年に「精神病學及び刑事人類學の最近の發見及び適用」(Le piu recenti scoperte ed applicazioni della psichiatria ed antropologia criminale)を、一八九四年には「無政府主義者」(Gli anarchici)を、一八九七年には「犯罪者と佛蘭西革命」(La delinquenza e la rivoluzione Francese)を、一九〇二年には

『舊犯罪と新犯罪』(Delitti vecchi e delitti nuovi)を公にし、かくて一九〇六年より翌年へ掛けて、『犯罪人』の第五版を出すに至つた。此第五版の『犯罪人』は三卷と附圖一卷より成り、第一第二の二卷は特に『人類學、法律學並に刑事學との關係に於ける犯罪人』(L'uomo delinquente in rapporto all' antropologia, alle giurisprudenza ed alle discipline carcerarie)となし、第三卷並に附圖には刑事學(alle discipline carcerarie)をなして精神病學(alla psichiatria)として居る。初めに二百五十三頁であつた本冊子は、此第五版にて第一卷は序文三十五頁と六百五十頁、第二卷は五百七十六頁、第三卷は六百七十七頁、附圖は百二個の圖表を有し、頗る浩瀚の大著述となつた。且其内容に於ても、三百八十個の犯罪人の頭顱と、千八百三十九人の犯罪人の容貌及び身體上の寸尺と、數千人の犯罪人の身體的並に精神的の徵候、言語文字の狀態等が、學説の根基をなすに至つた。

かくの如くトリノに於けるロンブローゾは、犯罪人の研究に其精神を傾注したやうであるが、尙精神學並に法醫學の方面の研究も怠らなかつた。即ち一八七三年に『精神病に關する法醫學』を公にしたことは前述の如くであるが、この外、一八八三年には『狂者に於ける戀愛』(L'amore nei pazzi)を、一八八二年には『天才と狂氣』の第二版を、一八八六年には『法醫學講義』(Lezioni di medizina legale)を、一八八九年には『精神病學の關係に於ける天才』(L'uomo di genio in rapporto alla psichiatria)を、一八九〇年には『死體に關する法醫學に就て』(Sulla medicina legale del cadavere)を、同年に『癲狂と變態』(Pazzi e anomali)を、一八九四年には『天才と變質』(Genio e degenerazione)を、一九〇二年には『天才に關する新研究』(Nuovi studii sul genio)を、又一九〇五年には『刑事精神病學的熟練』(La perizia psichiatrico legal)を公にした。これを以ても如何に天才に關する

研究に興味を有したかゞ明である。

のみならず頭腦の廣かつたロンブローゾは、其他種々なる方面を研究して其結果を公にした。例へば一八九四年には『非セミティック主義と近世科學』(L'antisemitismo e le scienza moderne)を、一八九五年には『手蹟學』(Grafologia)を、一九〇八年には『催眠並に精靈現象の研究』(Ricerche sui fenomeni ipnotici e spiritici)を公にした如きはそれである。

かくてロンブローゾはトリノに留任すること三十有三年、一九〇九年十月十九日に滿七十三歳の高齢を以て易簀したのである。

今ロンブローゾが、初めてパヴィヤに教鞭を取るに至つてより死するまでの四十七年間を見るに、講義をなすの傍絶えず學術の研究を怠らなかつたのみならず、其研究の結果は上述したやうに頻々として發表せられ、死する前年迄其

著述を公にして居つたのである。而して其研究の經路は精神病學を本道として、それより犯罪人論並に天才論を生み出し、此方面の研究を以て一貫して居つたというてもよい。從つてロンブローゾの學說としては、犯罪人論と天才論とに其特色と功績とを認むべきである。特に前者は法律學、刑事政策、宗教、道德等に影響するところが多かつたから最も世人の注目を惹き、ロンブローゾを以て十九世紀末に於ける思想界の革命者と見做すに至つた。晩年に公にした精靈論の如きは、ロンブローゾが終始せる學說より稍脫したるの謗がないでもないが、これを以て其學說の他の方面にまで及ぼして云々せんとするは、決して當を得たものとはいはれない。

研究の態度　以上述べたロンブローゾの研究を見るに、其業績の大部分は犯罪、ペラグラ、賣淫、無政府主義等總べて社會の害毒に對する研究であつた

が、其思想はダーヴィン、モレショット(Moleschott)、コント(Comte)、スペンサー(Spencer)ヴィコ等の影響を受けた爲めに、唯物論的・進化論的で且宿命的社會的であつた。かくて社會發達の法則を生物的自然法則より得んとし、當時漸く盛になりつゝあつた各種の自然科學を基礎として、個人を研究するのに生物學的並に人類學的研究を行ひ、殊に其天才的の炯眼を以て個人の特徴を洞察し、其處に自説の論據を立てたのである。かゝる態度は當時の伊太利の思潮とは頗る趣を異にしたものであつた。例へば一九〇五年にエストランドの反逆事件のあつた時に、裁判官は單に其主謀者の檢舉に努め、心理學者は模倣・暗示・催眠狀態等の現象を以て説明をなさんとし、新聞紙は社會政策の不備にありと痛論し、又政治家は信仰心の缺乏・法律の不全に歸した。然るにロンブローゾは專ら氣象・種族・骨相・頭蓋・變質徴候等の人類學的研究に意を用ゐ、癲癇・ヒステリー・偏執狂・大酒家・浮浪者・累犯者等を精密に調査研究した。

かくて當時の伊太利の學界は、ロンブローゾの研究の態度に頗る強く駁擊を加へた。けれども其堅固なる精神は更にこれを恐るゝことなく、且自己の所信に據ること益强く、著々研究の歩を進め、自説の基礎たるべき材料の蒐集に努めて毫も怠るところなく、絶えず其研究結果を公にした。爲めに尙一部の學者より其所説には不備のところありとされながらも、皆其絶倫の精力と眞摯なる態度と業績の著大なるとに感嘆して遂には、ダーヴィン以後の大學者として目さるゝに至つたのである。

第二節　ロンブローゾの先進者

如何に偉大にして獨創的な思想にしても、突發的に起ることは殆んどない、

必ずやこれが先進たるものがある。

ロンブローゾの犯罪人研究に於て見られるが如き思想も、亦其以前になかつたものではない、勿論ロンブローゾの如くに、系統を立てた纏つた大研究ではないにしても、多くの學者は既に早くより、此方面に著眼して居つた。

既にアリストテレース(Aristoteles, 前、384-322)は、犯罪人に特徴ある事實に注意した。ガレーヌス(Galenus, 131-200 頃)は、犯罪は其人の先天性に因る者なれば、刑罰は何等の効なしと論じた。骨相學にて有名なるガル(Gall, 1758-1828)は、犯罪者に對して刑罰を科するには、其犯罪したる個人を研究し、それに依つて刑罰を決定せざるべからずと主張し、後年犯罪者研究の盛に行はるゝに至つた先驅者となつて居る。ガルの門下生にして、ツーロンの監獄醫であつたローヴェルニュ(Lauvergne)は、多年に渉つて數千人の犯罪者を研究して、

頭蓋骨を調査し、其製作にかゝる石膏の頭の型は、今日も尙保存されてある。

一八三五年には、英國のプリッチャード(Prichard)が『狂者論』(Treatise on Insanity)を著して、常習性犯罪者には、一種特別なる定型があつて、かゝる人には精神上に先天的異常ありと述べて、悖德狂を主張した。

一八四九年には、ルーカ(Lucas)が『自然遺傳論』(Traité de l'hérédit naturelle)なる著述をなし、其中に於て窃盗・殺人・强姦・放火等の犯罪を行ふものは、先天的素質の遺傳ありと論じた。

モーレル(Morel)は、一八五九年に『變質論』(Traité des dégénérescences)を著して、一種の退歩的自然淘汰を變質と觀、これは種族の保存に對して必要なる總べての要素を有する原始的定型が、其正路を脱離したるものにして、生活條件の不良なる時は、身體上に惡影響を與へ、人を種々なる方面に變異せしむる

ものであつて、これをモーレルは變質徴候と呼び、殊に變質性兩親の間に生れたるものは其徴候が著しく見られると述べて、犯罪を行ふが如き精神と、此變質とは密接なる關係にあると主唱して、犯罪者は普通人の定型を、多少離れたるものであると考へた。

又デスピン(Despine)は、一八六八年に『自然心理學』(Psychologie naturelle)を著して、癲狂者及び犯罪者の常態並に變態に於ける知識と道德との作用を論じ、習慣性犯罪者の特徴として、怠惰・輕卒・無悔悟及び心身の機能減弱等を擧げた。

英國の監獄醫なるトムプソン(Thompson)は『犯罪者の心理』(Psychology of Criminals 1870) なる著書、竝に『犯罪の遺傳性』(The Hereditary Nature of Crime, in Journal of Mental Science oct.1870.) なる論文に於て、犯罪の遺傳的

關係を説明し、常習的犯罪者にある身的徴候を擧げた。同じく英國の監獄醫なるニコルソン(Nicholson)も犯罪の遺傳的關係を述べ、特に窃盗及び詐欺の精神狀態を研究して、癡愚者と同樣なる精神的缺陷の存在を認め、又常習的犯罪者にある身的徴候を擧げて居る。

尙又モーズレー(Maudsley)は、一八七三年に『心的責任』(Mental Responsibility)を著して、犯罪者を道德的狂者となし、精神病と犯罪者との間に、所謂中間をなす種類のものあることを認めた。

かくの如くロンブローゾが、其の『犯罪人』を出す迄には、種々なる學者が犯罪人に關して人類學的研究をなし、犯罪者の個性的方面を主んじて、業績を公にして居る。一方にはこれ等の種々なる犯罪者に關する研究と、他方には前に述べたダーヴィン、モレショット、ヴィコー等の學説とが相俟つて、此天才的素質

ののつたロンブローゾに、偉大なる學説の設立をなさしめたのである。

第三節　刑事學とロンブローゾの犯罪人研究

一、刑事學の新派と舊派。

從來犯罪者を刑事學上より觀察するのに二派がある、即ち伊太利に於てチェーザレ・ベッカリヤ(Cesare Beccaria)が唱導して、フランチェスコ・カララ(Francesco Carrara)が有力な學説とした所謂舊派と、ロンブローゾの主張した所謂新派とが、相對立した代表的學説をなしてより、これが廣く各國の刑事學界に波及するに至つたのである。

ベッカリヤは、一七六四年に犯罪と刑罰に關する自己の學説を發表し、從來の裁判官が犯罪者に對する刑罰を量定する上に、廣き無制限なる權力を以て擅斷

するを難じ、かゝる權力は往々にして犯罪者の處遇を非人道的に又非正義的に導くものである、法律の前には何人も平等なるべく、又如何なる刑罰も、行はれたる犯罪より大なるべきものにあらずとし、犯罪の性質に依つて刑罰は量定されざるべからずと論じた。所謂舊派は、これを其根本思想となし、總べての犯罪者は精神に異常あるものゝ外は大凡普通人と同樣なる知識と感情とを有し、抑ふべからざる慾望に支配され、自由意志を以て惡事を行ふものであつて、從つてこれに科すべき刑罰は、單に其犯罪行爲に依つてこれを定むれば足るとなすのである。

これに反對して起つたのが所謂新派であつて、犯罪者の反社會的傾向は、彼等が普通人と本質的に相違する身體竝に精神を有するに因るからで、且各個人平等な自由意志を以て行つたものでもない、これを處罰する代りに、これを治

療すべき形態學・心理學・病理學其他の種々なる關係を研究し、刑罰は其犯罪に依つて定むべきものでなく、其個性に依つて定むべきものであるとなすのである。而して所謂新派は、刑事人類學なる一つの新しき科學の上に、其基礎を有するもので、犯罪者の自然史を研究するものともいへるのである。而してかゝる學說の基礎を確立したのは、卽ちロンブローゾである。

二、ロンブローゾの犯罪人研究。

ロンブローゾの犯罪人に關する學說には、種々獨創的の部分が多くあるが、殊に世人の注意を惹いて賛否の交〻加へられたものは、犯罪性の隔世遺傳說（Atavismo）と、犯罪定型論（Tipo Criminale）とである。而して此二者は、何れも犯罪者に或特徵を認むる點に發するものである。

元來ロンブローゾが、犯罪人に特有な特徵のあることに心づくに至つた最初

の動機は、軍醫在職中伊太利の兵士の研究に餘念のなかつた頃である。當時多くの兵士の身體の方面を調査して居つたところが、善良なものと不良なものとは單に性質上の相違のみでなく、其身體の上にも明かな區別のあることに氣がついた。けれども此時には未だこれを以て一つの學說を立てやうといふやうな考へは起らなかつた。

然るに一八六六年に精神病の研究を初めるやうになつてから、精神病者の頭蓋を尺度を以て測定することが必要であると信じ、兼ねてこれを犯罪者の研究にも用ゐて見たらばとの念が起つて、特に犯罪者・精神病者竝に普通人に於ける相違點に注意して研究し初めた。

其後程なくロンバルディヤ地方を荒して有名な强盜ヴィレラ（Vilella）を研究することになつた、此男は非常な力持で、羊を肩にしてアルプスの峻坂を馳け回

るといふ有名な强盗で、自分の犯罪行爲を自慢して語る程、無恥のものであつた。此强盗の頭蓋を解剖して見たところ、偶然にも中央後頭窩を有することを發見し、從來進化論的思想を有せしロンブローゾは、恰も一つの啓示に接したやうに感じたのである。これは實に一八七〇年の十一月の或陰鬱な寒い朝であつたが、ロンブローゾは此時の感想を「恰も廣野をさ迷へる旅人が、一道の電光に道を見出したるが如く、從來渾沌として要領を得なかつた犯罪者の本質の問題に、一新生面を開くに至つた」と述べて居る。卽ち中央後頭窩なるものは、普通の人には頗る稀有なものであるが、猿以下の動物には普通に存在するものであるから、ヴィレラの如き動物的性格者には、精神上のみならず身體上にも先天的に動物的特徴を有するものであつて、これは所謂隔世遺傳に因つて然るものであらうと考へついた。

更に尙多くの犯罪者を解剖して、巨大な顎・高い顴骨・よく發達した眼窠弓・强き犬齒等を見たが、これ等は何れも、肉食動物や野蠻人に存在せる特徴が、今日の文明人に於て偶然に出現したのであると考へた。次に此大膽な憶說を益强く力說せしむるに至つたものは、ヴェルツェニといふ色情狂で、異性を虐待し强姦した犯罪者の研究であつた。

けれども尙此說のみを以て犯罪者を說明することに對しては、多少の疑點を挾む餘地を有して居つたが、ミスデェヤといふ二十一歲になる兵士の犯罪者を調査して以來は、殆んど確固動かすべからざる犯罪人に對する自說を立てゝ固守するに至つた。此男は愚昧なものであつたが偏癖なものではなかつた、或日特別な理由のないのに、突然に上官と朋友とを八名殺害し、兇行後强い昏睡に陷つた。覺めてからは、此事件に關して何等の記憶をも有して居なかつた。此

行爲は全く殘忍な動物的行爲であつて、只其男が遺傳的に得て居つた癲癇の總べての特徴を表はして居つたに過ぎなかつた。

かくてロンブローゾは、犯罪現象は單に隔世遺傳に因つてのみ起るものでなく、顏面の不對稱・衝動性・腦質硬結・犯罪行爲の周期的衝動性・惡事の爲めに惡事をなさんとする希望等の癲癇に共通な病的特徴が、前述の隔世遺傳的のものと、相混合して起るものであると確信するに至つた。卽ち犯罪の主要なる原因は、隔世遺傳的のものと、病的殊に癲癇性のものとであつて、これは決して本人が生れて後に得た特徴ではなく、生れながらに有するものであつて、これを有するものは宿命的に犯罪者たるべきもので、又これを人類の一變型と觀ることが出來るとして、茲に生來性犯罪者（delinquente nato）なる學說を唱ふる基礎を得たのである。

尤も隔世遺傳に關する論證としては、原始人・未開人・兒童等の心身を研究し、又は言語の發達上より觀察して、犯罪行爲の起原を調査したことは、後に犯罪原因論に於て述ぶるが如くである。

此犯罪者は特別な徴候あるといふことは、更にロンブローゾをして遂に犯罪人型なる學說を立つるに至らしめた。卽ち上述の遺傳的のものゝ外に、病症と環界とか條件をなして、殺人には殺人の、窃盗には窃盗の定型があるといふ點にまで及ぼされた。けれども犯罪者を或る一定の定型に規定し去ることは不可能であつて、其犯罪行爲の形式竝に程度は千差萬別であるから、實際に於ては生來性犯罪者といはるゝものより普通の人に至るまで、無數の階級を有して居るものといつてよい。そこで犯罪者の分類には、犯罪の原因から說き進むやうになつた。卽ちロンブローゾは、犯罪者を分類して、一、生來性犯罪者、二、

悖德狂者(pazzo morale)、三、癲癇性犯罪者(delinquente epilettico)、四、精神病性犯罪者(delinquente pazzo)、五、偶發性犯罪者(delinquente d'occasione)、六、感情性犯罪者(delinquente d'impeto passione)となした。これ後にフェリ(Ferri)やアッシャッフェンブルグ(Ashaffenburg)などが、犯罪人の分類をなすに至つた基礎であつて、犯罪並に犯罪人の研究に、科學的方面を開いたものというてよいのである。

換言せば從來犯罪を對象として研究して居つた刑事學は、ロンブローゾ出でて犯罪人を對象として研究せざるべからざるに至り、殊に刑罰論並に犯罪者の處遇に關して、殆んど根本的の改革を必要とするに至つた。卽ち其學說が刑事學の新派を以て目される所以であつて、又實に十九世紀末に於ける思想界の一大變動といふべき所である。

而してロンブローゾは、其研究の結果、生來性犯罪者と觀るべきものを、犯罪者全體に於て約三分の一を發見したに過ぎないが、これは社會の安寧幸福を侵害する所謂犯罪者軍の最も主要な部分を占め、最も害毒あるものであつて、殘餘の三分の二は輕罪者・偶發性並に習慣性犯罪者等で、これ等は前者の如く普通人と著しき相違を有するものではないとした。此犯罪者軍の中堅と觀られる生來性犯罪者は、最も多くの且最も顯著なる異常(Anomalia)、殊にモーレルが進行性退化の意味に用ゐた變質(Degeneration)を有するものであつて、ロンブローゾ並に其學派の人々の注意深き研究は、身的機官及び心身の機能に於て、本能性犯罪者の隔世遺傳的並に病理的起原を說明し得る多くの點を見出した。

尤も研究の初期に於て、極端に主張した犯罪性の先天論は、それに對する學界の批評と自己の厭ぐことを知らぬ研究とに依つて、漸次に改善せられ、殊に

所謂刑事社會學者の重要視する環界の現象、例へば氣象・人口・經濟・教育・宗教等に渉つて研究した結果をも加へて、自説の論據とするに至つた。從つて單純に犯罪人の個人的方面の研究にのみ沒頭せる狹義の刑事人類學者・精神病學者又は心理學者等の所説と、大に其趣を異にするに至つた。故にロンブローゾを目して、犯罪の原因に關する社會的要素を等閑視せるものとして攻擊するは、未だロンブローゾを研究せざる人か、若しくは其個人的方面の研究の極めて廣くして、其所論の熱烈なるに眩せられたるものといふべきである。

却説、ロンブローゾの犯罪人に關する論旨の主なるものは、いふまでもなく其絶代の大著「犯罪人」の中に收められてある。けれども政治的犯罪者を婦人犯罪者に就きての詳細は、各々別の著述となつて表はれて居る。而して以下述べるところが、これ等の著書に據つて居るのはいふまでもないことである。

第二章　犯罪者各論

第一節　生來性犯罪者

一、生來性犯罪者の身的異常。

生來性犯罪者は、ロンブローゾの最も注意して研究したところで、殊に其身體上に於ける異常に關しては、特別の興味を以て觀察した。而して其主なるものは、次の諸點であつて、罪質と身的異常との間に、大に注意すべき關係のあることを認めて居る。但し以下に示す身體部位に關する長さ大さ等の數量を以て、直ちに人種の異つて居る我日本人に於けるそれと比較せんことは、當を得たものでない。

頭　生來性犯罪者の頭骨は、一般に平均の大さより大なるか又は小なるかである。即ち頭部係數――頭蓋骨の最も廣き巾に百を乘じて、其最も長き長きにて除したるもの――に於ては、何等特性はないが、平均のそれに比して大なるか、小なるかである、其大なるものは圓に近きものにして、其小なるに隨つて長き頭蓋骨を有する道理であるが、百分中一五・五は係數九一にして圓形の頭を有し、又小頭を有するものは普通人に見らるゝ割合の二倍も多く、對稱を失へるものが百分中一〇・九、頭蓋の縫合部に凸又は凹あるもの百分中一一・九、野蠻人の特性なる頭骨の厚きに過ぐるもの百分中三六・六、其薄きに過ぐるもの百分中八・一、著しく前額の凹めるものは普通人に見らるゝ割合の二倍もあつて百分中二五、猿の如く前頭の殺げたるものは百分中一九、其低くして狹きものは百分中一〇あつた。

顴　生來性犯罪者は、狹き前額と低き頭蓋とを有し、多くの動物と相類せるものが少くない。側面より見て顏面の下部が上部よりも前方に突出せるものが、全犯罪者の百分中四五・七、下顎並に下齒が上顎並に上齒より前方に突出せるものが百分中三八あつて、普通人の百分中二八なるに比し頗る割合が大きい。これは眼窠弓並に顴骨の發達に關係し、百分中三八は此種のものである、又顎の大さも其平均直徑普通人の九三糎なるに對して、一〇三・九糎であり、百分中二九は巨大なる顎を有せるものである。この顎並に顴骨の發達は咀嚼系統の發達を示すもので、又暴力を振ひ激烈なる復讐計畫をなさんとする時の表情に伴ふ齒を食ひしばり、口を堅く閉ぢることに關係を有するものである。而して顏面の左右不對稱なることは、犯罪人相の普通の特徴であつて、殊に眼や耳が水平を異にし、大さを異にし、又鼻が一方へ傾けること等は主なもので、これ

は後に述ぶる感覺並に能力に於ける著しき不平均と相關係するものである。

眼　は人の精神を明かに示すもので、其眼付はこれを舒述することは容易でないが、然も犯罪者を觀察する人には、何人にも明かに注意さるゝところである。此概括的の表情と共に、多くの異常が見られる、例へば眼瞼が下がり・半眼に開き・斜視・虹彩の不對稱・傾ける眼瞼等も屢々見られる。

耳　外耳は普通人よりも大に失し、或は小に失し、犯罪者の百分中二八はチンパンヂーの如き側面に開きて立てる耳を有し、又は水平を異にせるものである。變形せる耳・平たき耳・耳輪又は耳輪の迎珠を缺ける耳・耳の後部緣の上部にける小瘤――ダーヴィン氏小瘤といふ――ある耳・尖れる耳等も、往々犯罪者に見られる。耳朶に於ても顏面に接近し過ぎて居り、古代珠玖人に於けるやうに著しく大なる形を有し、又全くこれを缺き、或は收縮せる耳朶のものもある。

鼻　窃盗者に於ては、捩れたる鼻・上向の鼻・平たき鼻を多く見、殺人者に於ては、食肉禽の嘴の如き形の鼻を多く見る。鼻孔大にして小鼻大なる爲めに、鼻が恰も三頂點あるが如き觀を呈し、アッカス族――中央亞弗利加の矮人――の有するが如き鼻も、犯罪者には少くない。

口　口は顏の他の部分よりも、多くの異常を有し、顎の著しき發達に就きては、既に上に述べた、殊に咀嚼筋の發達は、一種の變態を生ずるものである。婦人の犯罪者又は殺人者には、恰も黑人に於けるが如くに、肉厚く膨れたる突出せる唇を有して居る。これに反し詐欺犯者は薄く眞直なる唇を有し、又兎唇は普通人よりも割合に多く見られる。

頰囊　哺乳動物の或種、例へば猿等に見らるゝ頰囊は、犯罪者に於ても往

々見られる。

口蓋　口蓋の中央の高きもの、爬蟲類に見らるゝ口蓋齒に相當する凹凸襞のあるもの、發達の缺陷と思はれる口蓋に於ける裂目等は、犯罪者に屢ゝ存するものである。

齒　犯罪者は普通の齒を有するもの少きが故に、齒は特に重要なものである。門齒には異常多く、兩側の門齒を缺きて中央の二枚の門齒が著しく大きく、恰も齧齒類の門齒の如きもの往々あり、又齒の間隔多く、或は上下の齒が正しく接しないものも少くない。齒の同形なるものも亦多い。犯罪者の百分中四は、犬齒が著しく發達し、長く鋭く且内曲して居ること、肉食動物の犬齒のやうである。

顎　犯罪者の顎には、小兒に於けるが如く、小さくして引込めるか、或は

猿に於けるが如く、著しく長く平たきもの屢ゝあり。

皺　普通人にも存すれども、犯罪者に於ては其數・變化・早成が大に觀察者の注意を促すものである。例へば額部の水平並に垂直の皺・鼻梁基の水平並に曲れる皺・目尻の皺・口並に鼻の周邊にある皺はそれである。

毛髮　男の犯罪者には鬚少く、女の犯罪者に毛深きもの多く、殺人者に黑き髮のもの多く、詐欺犯者に縮れた柔き髮のものが多い。白髮、禿頭は犯罪者に少く、あるとするも普通人よりも、其生ずる時期が遲い。前額狹きまでに頭髮生じ、眉太くして相連續し、往々傾けるものがある。尙毛髮の異常は、單に顏面・前額に限らず、手足に於ても注意すべきものである。

胸廓　犯罪者の百分中一二は、肋骨の數を多く有せるもの又は少く有せるものである。これは隔世遺傳的特性であつて、動物並に下級民族若しくは原始

民族には普通なるも、文明人は數の一定するを以て特性として居る。乳頭の着通以上に多きことも珍しくなく、男子にて乳の肥大せるもの、女子にて乳房を缺き又は不發達なるものも少くない。或は又ホッテントット族の女子の如くに、長く垂れたる大なる乳房を有して居るものもある。胸部に深き毛を生じて、恰も獸なるかの如き觀を呈して居るものも往々ある。

腹部・骨盤　生殖器は、屢々男女轉倒せる狀態を有することあり。百分中四二に於て薦骨管は覆はれずに存し、又時には尾骶骨異常に長くして、往々尾の如くに毛の生ずるものもある。

上肢　伸手長が其身長に比して長きに過ぎ、恰も猿の類に見られるが如きものが多い。又隔世遺傳的特性としては指・掌に於て多く見られ、例へば指が多きに過ぎ、又は少きに失するものが稀でなく、時には第二指骨まで水掻の如き

皮膜の附著せるものもある。指の長きは犯罪に因つて異り、大體に對する犯罪をなせるものは、短き木器用な指、特に短き拇指を持つて居り、詐欺・竊盜・性慾犯罪・掏摸等を行ふものは、長き指を持つて居る。又掌にある線が、猿に見るが如き形式を有することもある。

下肢　實驗せる犯罪者百分中一六は、第三轉子郎ち大腿骨が骨盤と連結する突起が異常に發達せり、これは四手動物の後手に見らるゝもので、隔世遺傳の明かなる一特性である。更に又趾よく動き、大趾著しく長く、物を捕ふるが如き程度に發達し、猿のそれと相類せるものがある。黑人の如く土踏まずのなきものも屢々ある。普通の人と相反して、手に左利きの多きやうに、足も左の力強きものが往々ある。

腦髓　主なる普通の異常は、腦の左半球の異常で、最も注意すべきものは、

下等哺乳動物に見られる中葉を示す小腦蟲樣體の肥大にして、其他回轉の狀態にも異常なく、ローランド氏罅隙二重となり、前部第四回轉往々存在し、又多くの猿に見らるゝ前楔狀葉の不完全なる發達あること等である。この外純粹の病理學的特性の存するは普通であつて、腦膜の粘著・軟腦膜の厚化・腦膜の充血・部分的萎縮等は何れもそれである。

ロンコロニ（Roncoroni）が生來性犯罪者並に癲癇病者の腦に於て發見せる組織學的異常も、亦大に重要なものである。即ち腦の前部層には、普通に小さい三角形並に星形細胞が多いけれども、生來性犯罪者や癲癇病者では、大きい角椎尖形並に多樣形細胞が多い。又小さい細胞のある表層から、大きい角椎形細胞への移り變りの部分が明かでなく、神經細胞の數も普通より少い、普通の腦には白質に神經細胞殆んどなきに、生來性犯罪者癲癇病者の腦には存在して扇

る。かくの如き結果は、一には遺傳的に、二には病的に腦の組織上に異常を來たしたものである。

以上述べたる異常は、何れもロンブローゾの注意した點であつて、又一般の刑事人類學者の重要視するところである。彼はこれ等の異常の多くが、隔世遺傳的に說明し得られるものと考へ、これを以て生來的に反社會的行爲を敢てする犯罪者の、身體の構造上から見られる特徵としたのである。

二、生來犯罪者の感覺的並に機能的特徵。

上述の多くの身的異常に、更に以下に述ぶる心的特徵の多くが加つて、恰も多くの谷より流れ出でたる水が、次第に相集まつて一つの川となるが如くに、生來性犯罪者の隔世遺傳的性質を、次第に明瞭にし得るものとロンブローゾは考へた。彼が多くの實驗の結果は、次の如き事實を得た。

一般感覺　皮膚の感覺は頗る鈍く、デュ・ボア・レイモンの裝置を改良して試驗せるに、感覺度が普通人に於て六四・二糎なるに、犯罪者に於ては四九・六糎である。又普通人と反して、身體の左方は、右方よりも一般に鋭敏である。

痛覺　は頗る遲鈍であつて、全くこれを缺けりと思はるゝもの百分中一六の多きに達した、これは普通人に見られない現象である、尙百分中三九は、右手よりも左手に於て、より鋭敏である。

觸覺　觸覺計を用ゐコンパスの兩脚を指端に觸れ、其二點の區別して感せらるゝ最小距離を試驗したのに、彼等の百分中二〇は四糎であつたのに、かゝる遲鈍なものは、普通人には百分中四しか無い。觸覺に於ても左は右よりも鋭敏である。而して此觸覺遲鈍の程度は犯罪に依つて異り、夜間竊盜・詐欺・脅迫等をなすものは、普通人より遲鈍なること二倍なるに、殺人・强奪・放火等をなすものは、四五倍である。

磁氣に對する感覺　普通人には殆んど見られないけれども、犯罪者には百分中四八、これを感ぜるものがある。

天候に對する感覺　これは犯罪者・精神病者に往々見られる一種の感覺で、氣溫・氣壓等の變化を、よく鋭敏に感知するものである。

視力　視力は野蠻人に似て、普通人よりも鋭い、けれども色覺は却つて鈍く、色盲のものが普通人に見られる割合に倍して居る。視野は往々白に依つて限られ、中には癲癇病者に見られる末梢性昏瞑と共に、輪廓の不規則なるものも少くない。

聽覺と視覺と味覺　何れも普通人より遲鈍であつて、殊に全くの無感覺並に、或性質に對して遲鈍なるものも頗る多い。

以上と種類を異にするもので、注意すべき二つの機能がある。

輕快　犯罪には性輕快なるものがあつて、老年に至るもこれを失はざることがある。有名な强盜ヴィレラは七十歳以上に達しても、尙故郷カラブリヤの斷崖を跋涉して居つた、又これも有名な窃盜であつたラベッキヤは、甚だ老年なりしも、バヴィヤの障壁を飛び越えて、捕縛を逃れたことがある。

力量　一般に力量の多きものは少い、中には左右の手の力に相違なきものが屢ある、又小兒の如くに兩手利きのもの多く、或は左手の著しく强いものもある。

三、生來性犯罪者の心理

犯罪者の心的典型は、其道德的竝に知識的特徵と相俟つて、癲癇者竝に野蠻人との類似を示すものである。

(一)、自然的情緒

これは普通人が自然に有して、日常生活の重要なる部分をなすものであるが、犯罪者には此種の情緒を健全に有することが極めて少く、殊に自己と關係の深いものに愛情を示すことは稀で、却つて犬・猫・小鳥などの如き動物若しくは未知の人に對して、强き溺愛を有するものである。又家庭感情とか、社交感情とかいふものよりも、寧ろ後に述ぶる虛榮心・衝動性・復讐心・放逸等に支配されて居るものである。

(二)、道德心

善惡の區別をなし得るものは、文明人の特性であるが、多くの犯罪者は自己の行爲を不道德なりとは考へない。例へば佛蘭西の犯罪者は窃盜者を友と呼び、窃盜を勞働といひ又職業といふ類である。嘗てミランの或窃盜は、「余は盜むの

ではない、只有り餘る富より救助を得るのだ」といつたことがある。かゝる種類のものから、到底善惡の正しい觀念を得ることは出來ない、恰も彼等は盜んだり殺したりする權利を有し、これを妨害するのは不法なりと考へて居るやうに見える。殊に殺人が復讐に因つて行はれたる時は、最も正當なことだと考へられて居る。

後悔　犯罪者が後悔したといふことは、往々聞くことであるが、眞の後悔をなすことは、極めて稀である彼等は殆んど其犯罪を告白することなく、頑强に其罪を否定し、不正・誹謗竝に嫉妬の犧牲とならざらんやう努むるものである。而して多くの犯罪者が、實際上後悔の念を現すことあるも、之れは人の同情を得、刑罰を逃れ、又は獄中の待遇をよくして貰はんと欲するが爲めである。或は又後悔を犯罪に對する辯解として述ぶる場合がある、「余は自分の迫害した女の

境遇を見て後悔の念堪え難く、この女に再び出逢はないやうにこれを射殺した」といふが如き言をなした或犯罪者があつた。尙注意すべきは、後悔の表情が酒精中毒に因る錯覺の結果のことがある。例へば或犯罪者は、自分の殺した被害者の幽靈を見て非常に恐れ、急に自分の罪業を惡かつたと思つたが、實は飲酒の結果中毒して、錯覺に被害者が現れた爲めであつて、眞に其行爲に對して惡かつたと後悔しては居なかつたのである。

彼等の或者は獄中麵包の屑片を以て、自分の犯罪行爲の狀態を形作つて、樂んで居つたものもあれば、又基督の十字架に掛れる聖像を、兇器に用ゐたる短刀の鞘に刻んだものもあつた。又或者は自分の父を殺害せる暫く前に、其友に向つて「今晩自分は墓穴を掘つて父を永久に埋めてしまう筈だ」と、平氣で語つたものさへあつた。又馬を盜めるものが、何の爲めに之れを盜んだかと尋問さ

れた時に、「之れは窃盗ではありませんよ、苟も盗賊の親分たる私が、徒歩で行かれるものですか」と、平然として恰も普通の行爲をなしたやうに、答へたことがあつた。

行爲の動機さへ善良であれば、何をしてもよいと考へて居る犯罪者は少くない。例へば其妻子を養ふ爲めに、殺人をして更に悪しき行爲をしたと考へなかつた或犯罪者の如きは、其著しいものである。固よりこれ等の例は、犯罪者が善悪を充分に區別しないことを示すものではないが、其道德的感情は不健全なものであつて、或は一時的の感情に因り或は習慣に因つて消滅されるものである。即ちかゝる場合は、眞理や正義の念は存するけれども、之れに從つて行ふべき希望を有しないのである。

犯罪者は些細なる自己の利益の爲めに、朋友を陷れ、共犯者を詐つて、不忠

實な行爲をなし易いものである。されば或者は犯罪團體の搜索に利用せられ、或者は警察官に相談せられるのを幸福と考へるものもあり、又或者は以前の友の捕縛の爲めに、警察官を助けるものすらあるのである。

高慢竝に虚榮心　犯罪者が人に注意されんとするの念は特に強く、或死刑の判決を受けたものが、「自分は死刑に處せられたのは何とも思はないが、只世間から賤しめられるのを虞れて居る」といふた如きは其一例である。而して窃盗者は、些細な犯罪をなしたと自白するを好まないで、實際以上に大なる悪事をなしたと誇る虚榮心を持つて居る、中には全く空想的の犯罪事實を語つて得々たるものもある。かくて近代の犯罪の中には、自己の虚榮心を滿足せしめ、名高くならん爲めに犯罪する場合がある。

衝動性　これは殆んど病的とも見られる一つの特徴であつて、後に癲癇病

者竟に悖德狂者に就きて述ぶるが如くである。尤もこれは普通の人にも見られ、強き暗示を受けたる時に、全く無意識に活動し初むるが如きはそれである。嘗て或窃盗者は「盗むのは全く自分の天性で、假令一本の針であつて直に自分から所有者に返すが如きものでも、之れを見れば盗まずには居られない」と語つた。又或掏摸は、十二歳の時より、途上に於て又は學校に於て掏摸を行つたが、假令自分のポッケットは一杯に満ちて居つても、盗まずには居られなかつた。のみならず此子供は毎日何か一つ盗まなければ、床に就いても安らかに眠ることが出來ない、かくて夜の十二時頃ともなれば、先づ手に觸るゝものを取つて、初めて落付くことが出來た。又或窃盗はローヴェルヌ(Lauvergne)に向つて「盗むことを止めるのは死ぬと同じことで、盗みは戀愛の如くに一つの感情である、若し脈を指さに血の湧くを覺ゆる時は、自分は盗むことが出來ると信ずるのである」といつた。ポンティチェリ(Pontichelli)も、或窃盗者が肺病にて死に瀕せるに拘らず、隣人の上靴を盗みて、自分の床の下に隠して置いたのを見たことがある。これ等は何れも彼等の行爲の、如何に衝動的なるやを示すものである。

復讐心　復讐の念の強いことも、亦犯罪者の一特質である。或殺人者は、其動機が只に被害者から憐寸を盗まれたのに過ぎなかつた。或男爵は、宗教上の行列を自邸の窓下に止めることが出來ないのに怒を發して、人を殺すに至つた。これ皆些細なる事實が、人の生命を奪ふが如き重大犯罪の動機となり、之れが、復讐の形式に於て行はれた場合である。更に又犯罪者の文身に於ても、獄中に於て書ける落書其の他に於ても、この復讐的のものが頗る多い。

殘酷　道德的にも肉體的にも無感覺なる爲めに、殘酷な性質となるもので

あつて、他の苦痛を苦痛とせざるものである。殊に婦人に於てこの傾向の著しい場合がある。例へば或婦人は其姪が自分を厭ふといふので、長い針を刺して殺害し、又或女强盜は、其夫が被害者を餘り手早に殺害したのを怒つて、何故もつとなぶり殺しにしなかつたと責めた如きは、何れも之れである。

怠惰　之れは犯罪者に於て矯正し能はざるもので、此點は野蠻人と相類して居る、其の最も甚だしきものは、規律的勞働を課せられるよりも、寧ろ死するを喜ぶが如きものすらある。最も此怠惰性は、時に依りて相違し、かの兇惡なる衝動を有せる時は、却つて强大なる精力を持つて居る。一般に彼等は野蠻人と同じく、酒精・噪宴・感覺的快樂を好み、これ等の爲めにのみ彼等は活動するものである。或婦人の「犯罪者は成長したる子供なり」といへる言は、犯罪者と兒童との研究をなした人には、容易に理解されるところである。又犯罪者

が酒色に耽ることは極めて著しく、竊盜して得たる金錢にて遊興することは、彼等の罪跡を發覺せしむる上に危險なるに拘らず、これを敢てするのが常である。

射倖心　賭博に對する慾望は、犯罪者に極めて强く、彼等はこれが爲めに常に貧困の狀態に居るともいはれる位で、獄裡に於てさへも、尙此慾望を滿足せしめん爲めに、色々な方法を以て賭博を試むることは、よく知られて居る。賭博に類した種類の競技は、一般に多く行はれるけれども、其原始的にして殘酷なるものは、野蠻人の遊戯と酷似し、犯罪者に依りて考案され保存されて居るものが少くない。

以上は生來性犯罪者の道德心を中心として觀て、彼等が如何なる狀態にあるかを述べたものであつて、其正邪善惡を眞に理解することなく、犯罪行爲を全

く普通の行爲と考へて居るが如き、或は今日の文明人に於ては殆んど見られざるが如き種々なる感情が、恰も野蠻人に於けるやうな狀態にあるのは、普通人と著しい懸隔のあるものといはねばならない。

宗教的感情　犯罪者が寺院へ參詣するや否やを調査したるに、これは犯罪の種類に因りて相違し、最もよく參詣するものは强姦者・殺人者であつて、前者の百分中六一、後者の百分中五六は熱心な參詣者であつた。けれどもこれ等は眞實の信仰心より出でたる參詣ではなくて、全く神が自己の罪業に同情し、自己を保護するものであるといふ自分勝手のものたるに過ぎない。

(三)、知能

先天性犯罪者の知能に關して、注意すべきことは色々あるが、こゝには一般に概括して知識と呼ばれる場合と、其の知能が彼等に特種なものとして表現さ

れた場合とに就いて、其大要を述べるのである。

知識　或作用に於て頗る淺薄にして劣つて居るのに、他の作用に於ては頗る誇張され又は秀れて居る。一般に深慮と先見とを缺き、其最も普通なる性質は不注意であつて、彼等は犯罪の現場に重要なる證據品を殘留して、若し之れがなかつたなら發覺せずに終つたやうな場合にも容易に捕へられるの危險をなし、或は尙充分に注意すべき時なるに拘らず、自分の犯罪行爲に關係する言を發し、繪を畫き、或は文身をなすことがある。ツェノ(Zeno)は、シシリーの或學童が、自分の行つた犯罪に關係する繪を、其手帳に畫いて居つた事實を語つて居る。又或强盜殺人者が、被害者の死體を戸棚に隱して置いたが、遂に捕へられて獄に投ぜられ、兇行後百日目に自殺を企てた、然し其前に水差に自分の兇行・監禁・自殺に關係した繪と文字とを畫いて、自分で窃に記念として置いた實

例がある。此種の不注意な事實が、警察官に發見されて、有力な證據となつた最も明瞭なものは、或殺人者が其兇行を自ら寫眞に撮つて置いた場合である。

然るに彼等が犯罪行爲をなすに際しては、往々普通人の知識を以ては及ばないやうな判斷・思慮を以て臨むことが少くない。例へば日常の普通の生活に於ては、極めて愚鈍なるやうに見ゆるものも、之れが竊盜をなし詐欺をなす場合には、頗る巧妙なる方法を以て行ふが如きそれである。

次に彼等に於て多く見られ知的表現の特殊なものとして一般に注意されるのは、以下の數種である。

隱語　犯罪者が自分等の間で常に用ゐて居る隱語には、其章句法や文法的構成に於て特別な變化はなく、只語の意味が變更され、多くは原始的言語に於けるが如き方法を以て作られ、例へば或事物を表すに、其一つの屬性を以てされて居が如き之れである。かくて死を「痩せたもの」とか「見じめな者」といひ、精神を「虛のもの」とか「恥しきもの」といひ、身體を「被」といひ、時間を「早きもの」、月を「探偵」、財布を「聖人」、施物を「無賴漢」、訓戒を「面倒なもの」といふが如きは其例である。其他多くの語は、野蠻人の語と同じく、短銃を其爆音より「ッッフ」といひ、懷中時計を其音より「ティック」と云ふが如くに、物聲語を用ふることも少くない。而してその隱語を用ふる必要は、勿論警察官の注意に觸れないやうにすることも明かに其一の理由であるが、尙極普通に知れ渡つて居る隱語を、公然と使用して居るを以て觀れば、これは單に公衆の注意を避けんが爲のみではなくて、却つて其注意を惹かんと努ひる事實が、一の理由をなして居る。

繪　犯罪者に存する一つの奇異なる特性は、自己の思想を繪畫を以て表は

さんとする傾向である。監禁生活に於ても、他人に自己の罪業を示さんが爲め・に、其狀態を畫き表すものがある。或强盗犯人が、水差に自己の罪惡の經過を刻みたる事實は前に述べた。即ち彼等には、書物・陶器・銃・器具等が、自己の所謂勳功を畫き表はす畫布である。而してこの畫に表はさんとする傾向は、古代の人の用ゐられたやうな象形文字を容易に作らしむるもので、且彼等の象形文字は、其隱語に密接に關係して居る。これは其秘密を守る必要に攻められて、多くこれ等の用ゐられるは明かであるが、尙それと同時に隔世遺傳的傾向の一表徵として考へることも出來るのである。

デ・ブラジオ（De Blasio）は、ネープルスの或團體のものが、監獄に於て用ゐて居つた象形文字を說明した。即ち上の三つに分れた帽で、それを着けて居る裁判長を表はし、裁判官の帽で裁判官を表はし、ナルピニといふ伊太利兵の軍帽で警官を表し、其他口を開いた毒蛇で檢事、喇叭の一種なる號角で銃騎手、頭骨と交叉せる骨とで竊盜、三角帽を戴ける人の形で警官を表はして居るのである。

犯罪者の技術・手細工に於ては、假令習慣性犯罪者が必要なる勞働には極めて强き嫌厭を有するも、或仕事例へば規律に反するが如きこと、逃走の助となるが如きものの製作等には著しき勤勉を有し、或は又麵包屑・石鹼等を以て、人の形を作るが如きことは、頗る熱心に行ふ傾向がある。又桶・機械・采・骨牌・將棋の類を作り、同囚者と意見を通ずる方法を考へ、復讐を行ふ兇器を作ることに熱中することもある。尙又彼等には獸類・禽類を馴すことに妙を得、或人の報告には、蚤を馴らすことすら巧なものがあるというてある。

文身　多くの犯罪者に於て屢見られる身體的裝飾にて、最も奇なるは文身

である。

文身は人の未だ充分に發達しなかつた頃の遺物で、原始民族の間では、文身は美服の代用とされ、其家族・種族の區別に用ゐられたものである。例へばエキスモーは上唇に青き二線を引き、スマトラの戰士は敵を殺害した記號を文身し、ウヘイヴァでは上流の女は下流のものよりも多く文身し、マオリ族にても上流の出身たる記號に文身を用ゐて居る。古代に於てはスレース人、ピクト人、ケルト人等は何れも文身をなし、羅馬兵は其腕に自分の將軍の名を文身し、又中世の藝術家も、其職業に關するものを文身した。近世に及んでかかる風習は、上流社會には棄たれ、只兵士・水夫・農民・勞働者等の間にのみ、殘つて居るに過ぎない。

かくて勿論文身が普通人にないといふのではないが、犯罪者には其割合が著

しく多い、卽ち前者にては百分中〇・一に過ぎないが、後者に於ては成年犯罪者百分中九、未成年犯罪者百分中四〇、は何れも文身を有して居る。尙同じく犯罪者にても、其罪質に因つて大に其割合を異にし、竊盜若しくは殺人の累犯者竝に生來性犯罪者に殊に多く、贋造者・詐欺者等には頗る稀である。

文身は往々其犯罪者の經歷を記せることがある。嘗てタルディュー(Tardieu)は、水夫の腕に處罰された文句のあるを見たことがある。又或有名なる犯罪者は、自分の胸に斷頭臺を畫き、其下に「自分は惡業をしたから終はよくない、これが自分を待つて居る最後である」との豫言を文身して居つた。又實驗した百四十二人の犯罪者の中五人は、其文身の意匠と位置の奇を得んが爲めに、痛覺の最も鋭敏なる部位に文身し、殆んど無感覺にあらずやと思はしむるものであつて、かかる事實は野蠻人に於てすら、見られざるところである。次に文身

をなせる身體部位の範圍も注意すべきもので、ラカッサーヌ（Lacassagne）は三百七十八人の犯罪者を實驗し、其中三十五人は、頭より足に至るまで處々に文身をなせるものであつた。

多くの場合に文身の意匠は、文身者の性格の激烈竝に復讎心を示すものである。例へば復讎の動機より詐欺をなし、殺人をなしたる或水夫は、胸に二つの錨を文身して其間へ「余は誓つて復讎せん」との文字を文身し、又伊太利革命の暴動の首領であつた一青年は、自己の生涯に於ける最も注意すべき時期を示す意匠を文身し、復讎の觀念が溢れて居つて、其右前腕に二つの劒を交叉し、其下に親友の頭文字を現はし、「儒夫死すべし、我黨萬歳」と文身して居つた。

又犯罪者の用うる文身は、記號・象形文字を以て書く代用をなすもので、彼等は皮膚に文身する一種の興味を有して居る。而して又隔世遺傳的のものと思はれるのは、犯罪者の團體に於て往々見られるもので、其愛人の顏面に烙痕を附することがある。これは決して復讎の意味ではなく、全くかの或野蠻人の酋長が、其妻や部下に行ふと同じく、自己の所有物たることを表示するものであつて、犯罪者の團體の記號とされて居る文身とは、區別すべきものである。

四、犯罪人型と普通人

兩者の相違

以上述べた身體上竝に精神上の特質は、其個々は何れも普通人に見られるところであつて、決して犯罪者のみに限られた特質ではない。且又犯罪は常に普通の狀態と相違した變質竝に隔世遺傳の結果のみではない、のみならず犯罪を行はない人々は、普通には全然完全なものと考へられて居るけれども、實際上決してそうではない。然れども所謂普通人に於ては、身體上・精神上・機能上竝に骨格上の異常が、同一人に於て多數集合して見られることは決

してない、然るに犯罪者に於てはこれ等の異常を全く有しないものが、普通人に於ける割合よりも頗る稀である。卽ち犯罪人型といふものは、上述した一つや二つの特質があつたとて、これを其典型といふことは出來ない、これ等の異常が普通人に見られない程多數集合して居る時にのみ、これを論ずることが出來るのであつて、これは必ずしも刑事人類學の學者に依らずとも、普通に判斷をなし得る人ならば、充分に注意され得るものである。

藝術家の犯罪人觀　玆に興味あることは、從來の有名なる畫家又は詩人等が、既に久しき以前より此方面に著眼して、犯罪人の典型を說明して居つたことである。例へばマンテニヤ(Mantegna)ティティアン(Titian)等の現はした暗殺者・死刑執行人・惡魔は、何れも生來性犯罪者の多くの特質を、驚くべき程正確に示して居る。又ダンテ(Dante)、シェークスピヤ(Shakespeare)、ドストエヴスキー(Dostoyevsky)等の文學家の舒述も、亦此病的典型を身體上並に精神上より忠實に說明して居る。

俚諺に現はれた犯罪者　俚諺は、永い年代の中に現はれ出でた生來の深刻な觀察者が、觀察した結論であつて、これ等の中に於て、吾人は動かすことの出來ない一種の眞理を發見することが、決して稀でない。犯罪者に關する俚諺の中にも、亦彼等に的中した特質を捕へて、吾人に警告を與へて居るものが多く、其間に注意すべき觀察點を見出すことが少くない。今其主なるもの二三を擧ぐれば次の如くである。

ロマーニヤ地方で普通に用ゐられて居る諺に、「鬚少く、顏色の惡いもの程、此世の中で惡いものはない」といふのがあり、又ピエドモントの諺に、「顏の灰色なのは、疥癬よりも惡い」といふのがある。又ヴェニス人は「赤鬚男と鬚女に

は近づくな」とか、「話をする時に外見をし、下見をし、又はちよこ〳〵歩む人には氣をつけよ」とか、「斜視するものは、何方からも呪はれる」、とか「上向きの鼻の女を嫁るよりも、田地や家を賣る方が優しだ」といふが如きは、何れも犯罪者に多く見られる特質を語つて居る。

普通人の觀察　この外刑事學に關して何等の知識なき人も、容貌を見て其注意すべき人物なることを悟り、運よく强盗や殺人の危害を逃れ得たといふ實例は、決して乏しくない。又嘗て四十名の兒童に、窃盗の肖像二十と、偉人の肖像二十とを混合して見せたのに、兒童の百分中八〇は前者の肖像を見て、惡い人で詐る人であると答べたことがある。

これを要するに、生來性犯罪者は、身體上にも精神上にも、他の普通人と特に區別し得られるやうな特質を有して居る。かくて籠に飼はれたる小鳥が、鷹

を見るや本能的に縮み上がると同じやうに、忠實な人は犯罪人型の異常に注意し、若しくは惡漢を見る時は、一種本能的な厭憎を有するのである。

所謂犯罪人型　かくてロンブローゾが生來性犯罪者に對する典型を與へた意味は、彼が其初めに唱導した程に、明瞭な範圍を有するものではない。彼が初めに唱導した犯罪人型は、頗る嚴密に限られて、例へば强盗には强盗の典型あり、殺人には殺人の典型あり、詐欺には詐欺の典型があるといふやうなものであつたけれども、かくの如き考へは、彼が其鋭眼を以て多數の材料に就きて研究して行く間に、次第に穩健になつた。

固より罪質に就いては大に注意をして、種々に相違した點を擧げて居るが、行爲の性質が異つて居る以上は、其行爲者の心身の狀態に幾分の相違が見られるのは寧ろ當然なことであつて、特殊な典型を規定するまでなくとも、自ら

異つた所のあるのは自然である。唯彼が所謂犯罪人型といふものは、決して前に述べた身體竝に精神の上に見られる一二の特質あるを以て、直に其典型とされるものでなく、全くそれ等の樣々なる特質が多數相綜合して、其處に初めて一種の犯罪人型といふものが考へられるといふのである。從つて犯罪人型といはれるものの有すべき特質は、普通人に於て見られないものではない、只犯罪人型の人といはれるものに比較して、これ等の特質を有する割合が極めて少いといふのに過ぎない。

されば勤ともすれば彼の說を根柢より非難せんとする論者の考ふるが如くに明確に普通人と犯罪人型とを區別じて、これ丈の特質あるものは普通人であるが、それ以上一つでも多く他の特質を持つて居るものは、犯罪人の典型たる部類に入るべきであるといふやうに、極端に嚴格な意味で說明して居ないのである。只甚だしき犯罪的傾向あるものは、普通人に見るよりも著しく多くの特質を有して居るといふのに過ぎない。彼の如き博學にして、科學的研究に熱心なる人としては、彼が犯罪者の研究の初期に於て大に主張したやうな、狹い限られた意味の犯罪人型なる學說を、何時までも固守して居れないやうになつたのは當然のことである。けれども彼の性格竝に學問の立脚地から觀れば、其犯罪者たる特質を注意する點に於て、尙幾分か過度に力說するやうな傾向のあつたのは已むを得ぬことであつて、之れが又世人の甚だしい誤解を招くに至つた所以である。

第二節　悖德狂者

悖德狂者と生來性犯罪者竝に精神病者　ロンブローゾ以前には、犯罪者の中に、反社會的行爲を行ふやうに、隔世遺傳的衝動から全然支配された異常者

を認めなかつた。けれども幼年期より、其同輩に不良行爲をなすやうな宿命的な衝動に左右されて居る或變質家族の存在には、常に多くの人が注意して居つた。而して此種のものの普通人と異つて居るところは、普通の人が最も親愛する兩親・夫・妻・子供を嫌厭し、又其非人道的行爲に對して、何等後悔することのない點である。從來これ等のものは、或は狂者として、或は病者として、或は時に犯罪者として取扱はれ、悖德狂者といはれて居つた。即ちピネル(Pinel)モーレル、リチャード・コンノン(Richard (Connon)等の精神病學者は、悖德狂者と生來性犯罪者とは、其身體上・知識上又は道德上の特質に於て、相類似すといはんより寧ろ相等しきものであると考へた。前述した頭蓋骨變形・不對稱・身體上又は機能上の左利き・齒手足に於ける異常等の肉體上の變態に於ても、虛榮心・無情・殘酷・怠惰・嗜飲慾等の如き精神上の特質に於ても、亦この悖德狂者と生

來性犯罪者とは、特別に相違したものでないと、多くの論者はいうて居る。されども從來の論者の心附かなかつた點であり、又この兩者の相符合する論據を完成せしめなかつた點は、其起源に關する説明である。最も悖德狂者といはれるやうなものは、精神病者・神經病者・暴飲者の子孫に多くて、犯罪者の子孫には割合に少いのは事實で、且又其悖德的特質は、生來性犯罪者に於て見られるより早く現はれるのも事實であるが、これ等のことは要するに根本問題ではない。

實例　然るにロンブローゾが、多年の間、多數の實例に就きて觀察研究した結果、兒童の頃より剛愎なる傾向を有して居り、其爲めに生長の曉には、勢ひ犯罪行爲をなすに至る悖德狂者と、所謂生來性犯罪者とは、何れの點に於ても區別することは出來なかつた。今其内著しき二例に就いて述べやう。

甲は幼い時から、子守の外に附添人を附けて置かねばならない程、手に合はぬ兒童で、其母がロンブローゾの許へ診斷を乞ふて來た。この子は充分注意して敎育されたに拘らず、二歳の頃から兄弟の枕に針を入れて喜んだり、亂暴なことをするので、一所に遊ばしては置けなかつた。四歳の時には父の錢入を壞し、錢を盗み出して菓子を買つたことがあつた。六歳の時には、餘り亂暴で惡いことをするので、知識の發達は充分であつたが、町の小學校を退學せしめられた。十四歳の時には下婢を誘拐して逃亡し、二十歳の時には婚約せる女を窓より投げ落して殺した。而して多くの醫者の診斷の結果は何れも悖德狂とされた、若しその甲が貧困な家庭に產れて、其母が幼時より醫者の診斷を乞ふが如きことをなさなかつたならば、この男の偏癖が病理學上に原因を有するものとされずに、全く普通の犯罪者と目されてしまつたに相違ない、何となれば知識

の缺陷なく、明白に事理を判斷し得たからである。

尙乙なる男は、八歳の時に其兩親が此子の異常なる行爲に心づいて、ロンブローゾに診斷を依賴した、只此子の甲と異るは、常に詐欺的方法に依つて不良行爲をした點である。此子は自分の兄弟に著しき憎惡の念を有し、殊に幼少なるものに對して甚だしく、數回絞殺せんとしたことすらあつた。又學校は友達を惡化するといふので退校を命ぜられた。其最も樂しみとするところは、兩親や雇主や隣人より物品を窃取することで、然かも彼はこれを行ふに極めて怜悧で、自分の惡心を人を看破されるまでには、何時も少からぬ惡事をなした。嘗て八歳の時隣人の門に置いてある牛乳の瓶を、毎朝仕事に出る度毎に窃に埃箱に入れ、門番の眼を逃れて盗んで居つた。又其翌年には、伊太利では未丁年者の質入が禁じられて居るに拘らず、外套を質屋へ入れて、金錢を借ることに成

功せんとしたが、毎に見附けられて遂げられなかつた。尚十歳の時には、父が違法に虐待すと訴へんが爲めに、自分から身體に瘍や瘢痕をつけて成功し、其父はこれに因つて監禁されたことがあつた。

この二例は　何れも貧困ならざる善良な家庭の子供であつた爲めに、其病理的遺傳といふ點に注意されて、犯罪者とは認められずに終り、兩親もこれを醫學的に取扱ひ、かくて其道德的方面に異常あることが發見されたのである。されども若しこれ等の子供の兩親が、犯罪者であつたか、又は其子供の行爲に類似したやうなことをしたものであつたならば、其偏癖を以て何人も其子供に先天的に存在せるものとか、早熟的に發達せるものとは、想像しないであらう。而して悖德狂的傾向が、癲狂・酒精中毒等の神經病的家族に寧ろ多くして、犯罪的傾向ある家族に少きことは、一見奇異の觀あれども、犯罪者は精神的に病的

人物なりといふロンブローゾの新說よりせば、理解に困難ではない、尙これに關しては後に述ぶることがある。

生來性犯罪者と悖德狂者とは、既往の注意深き診斷に依つて、反社會的の不良行爲をなすべき傾向が、既に幼年の時に、徵候として現れて居ることから知られる。けれどもかかることは醫學者にのみ知られることであるから、若し公衆や警察官が、此種の不良行爲あることに心づくことありとするも、多くは極端なる青年といふことを基礎として考へられるから、其惡癖が先天的に得られたものであるといふことが、發見されずに終るのが普通である。かくて其悖德狂者なるか、生來性犯罪者なるかを明かにするには、先づ其病理學上より觀察したる原因を研究しなければならない。かかる研究の結果、悖德狂者・生來性犯罪者は普通の犯罪者に於けるが如く、腦神經病者・酒精中毒者の子孫に屢見られ

ることは明かであるが、其偏癖の病的起因が、單に兩親の犯罪性に因ると見られる場合は稀である。

第三節　癲癇性犯罪者

癲癇性犯罪者と生來性犯罪者竝に悖德狂者　生來性犯罪者と悖德狂者とは、其心身上の特質に於て、相一致することは上述の如くであるが、尙此兩者と一致する他の變質階級がある、世人はこれを癲癇病者と呼んで居る。癲癇病なる語は、屢狂氣の意味に用ひられて居つたが、昔の醫學界には殆んど理解されて居なかつた。

癲癇の特徴　其徴候は初めに反覆せる發作があつて、次に深き睡眠に入るものである。尙徴候として搖搦的發作・突然の發汗・發熱・神經痛・嘔吐・眩暈等を

有すれども、之等の徴候は常に無意識狀態又は昏睡を伴ふものとは限らない。或時には發作は、只憤怒又は殘酷なる衝動的行爲として現れ、若し之が意識的に行はれるに於ては、普通の犯罪者と考へられるものである。卽ち癲癇病者は、往往穩なる發作のみを有し、頭痛・眩暈・嘔吐等としてのみ現れ、專門家の醫者に診斷を乞はざれば、眞に癲癇病者なることが注意されずに終る場合が少くない。

ルチャニ(Luciani)、ツェーン(Zehen)等は、腦髓の諸局部に、種々なる强度の刺激を與へて、恰も癲癇病者に見られるが如き種々なる形式の徴候を生ぜしめた。又ローゼンバッハ(Rosenbach)は電流の强度を色々に變更して、癲癇病者に見られる最も穩な發作より、最も激しき發作に至るまでを生ぜしめることが出來た。卽ち運動中樞を電氣にて穩に刺激したるに、之れに相當する部分が强直痙攣と一時性搖搦とを生じた、更に刺激を强めたるに、兩肢を擴げる强き運

動を起し、尙刺激を強めたるに半身に影響するに至つた、最後に一層强度の刺激を與へたのに、全身の一時的痙攣・無意識・眼球顫動・瞳孔の擴大を見るに至つた。リシェ(Richet)、バーナード(Bernard)は犬の腦の前方を刺激して見たのに、眩暈竝に或身的現象例へば嗅ぐこと、吠えること、噛むことを初めた。これ等の事實からして、ヂャックソン(Jackson)は癲癇病の起るは、腦の灰白質が迅速に且激烈に破壞するに因るのだと結論した。

かくの如く癲癇病には、種々なる徵候があるが、神經病で大凡かゝる發作のあるものを總括して、癲癇病といふのである。而して癲癇病者は、犯罪者と同樣に身體上に異常を有し、例へば大頭顱・小頭顱・斜視・顏面竝に頭蓋の不對稱・中央後頭窩・削れたる前額・突出せる耳・突出せる顎・形の惡しき齒等は、双方に共通して見られるところである。尙之の外に機能的竝に組織學的異常も注意す

べきもので、ロンゴロニは、生來性犯罪者の腦髓の前葉を研究して、深き顆粒狀細胞層に漸衝あり、大きい尖形細胞層と小さい三角細胞層とが轉置され、且尖形細胞が大きくなつて其數少く、白色質に神經細胞の存在するを見たが、これ等の狀態は恰も犯罪者ならざる癲癇病者の場合と略ゝ同樣であつた。又オットーレンギ(Ottolenghi)の研究に依るに、其視野の狀態が、生來性犯罪者と癲癇病者と同樣なる關係に存し、各普通人の眼に於て見られる視野の形と異り、周圍的昏瞑あるを發見した。

尙生來性犯罪者と癲癇病者と悖德狂者と其相類似せる事實は、これ等の精神狀態を研究して最も明かに感ぜられるのである。例へばこれ等のものは個人間に著しい知識の不同を有し、天才より魯鈍に至るまでの種類あり、殊に癲癇病者に於ては、この不同が同一人にて時を異にすると共に大なる相違を生じ、或

者は或時に極めて意志薄弱に昏迷狀態にありて、最も簡單なる觀念を形成することすらも不可能なるに、暫時の後には獨創的觀念を有し、よく論理的に理解し得るに至るが如きものがある。又感情の反轉並に興奮は、癲癇病者の顯著なる特質であるが、これは生來性犯罪者並に道德的に異常あるものにも、見られる特質である。例へば喧嘩を好み・疑深く・殘酷な性質のものも、突然に穩和な・謹肅な・情の厚い人となるが如きである。トンニニ(Tonnini)の觀察した一人の癲癇病者は、普通には極めて溫順な僕であるが、時々自らナポレオンになつたやうに考へて、頑然と構へて居ることがあつた。次に生來性犯罪者に見られる激しき興奮は、癲癇病者にも亦見られるところであつて、人を信じない・頑迷な・眞面目な奉從の出來ない・人の一擧動一瞥を以て直に憤怒するやうな狀態は、彼等を最も恐るべき行爲に至らしめるものである。かくて癲癇病は、其人の性格

に、不幸なる影響を與へ、道德性を破壞し、興奮性ならしめ、絕えずに存する錯覺や昏迷の爲めに感覺の變化を甚だしからしめ、人の自然に有する感情を變形せしめ、遂に不良なる行爲を强ひるに至るのである。

犯罪者や癲癇病者が、其親しむべき筈の近親者を嫌厭して、却つて動物に對して著しい愛着の念を有することは、又注意すべきことで、自分の子供よりも小猫の方が可愛らしいといつた如き種類の實例が、間〻あるのである。或悖德狂者の一人は、犬や馬や家鴨や其他の家禽を馴すことに妙を得て、恰も總へての動物は何れも自分の朋友であるやうに思つて居つた。

夢遊　これは往々癲癇病者の特質として現れるもので、クラフト・エービング(Krafft-Ebing)のいうて居るやうに、癲癇病者の發作は恰も夢遊に近き狀態で、患者は意識を回復し、普通に談話し、日常の行爲をなし、其職務をもなすが如

くに見えるけれども、外見の如くに普通の意識狀態にあるのではなくて、この期間になしたことを、其後に更に知らぬのである。尙この狀態は、相當に長く繼續することがあつて、一の發作より次の發作に至るまで、全くかゝる狀態で終ることもある。ドストエヴスキーの調べた犯罪者の多くは、其睡眠中に興奮して或擧動をなし、又話をなした。

淫行　も亦これ等のものに共通特質である。コヴアレヴスキー(Kowalewsky)は、生殖行爲と癲癇性發作とは、頗る相類似せるものであつて、筋肉の緊張・意識の消失等は何れも双方に見られることで、且癲癇的襲擊には性慾的傾向を伴ふことが稀有でない。元來性慾的私行は、恰も酒精亂用と同じく、犯罪者竝に悖德狂者に先天的の特質と觀られ、かゝる傾向が極めて幼少のものに見られ、其先天性なることを示す場合が少くない。

ヤロ(Marro)は、三歳十ヶ月の小兒が、生れるや癲癇の特徴を有し、嫉妬深く、短氣な性質を有して居つて、自分の兄弟を抓き、噛み、家具を打ち、物品を隱蔽し、自分の衣服を引き破り、若し憤怒の餘り他人に向つてこれを害することの出來ないやうな場合には、自分の身體の上に其怒を漏した、又其不良行爲が罰せられた時には、詐欺的な方法で益々其不良行爲を繼續したと述べて居る。又他の或兒童は、幼年期の頃から著しく興奮性であつて、次第に其性格が不良になり、常に激情に支配されるやうになつて、猫を殺したり、弟を絞殺せんとしたり、家に放火せんと試みたこともあつた。

尙癲癇病に共通する特質に瘍の癒え易いといふことがある。これはトンニニに依つて觀察された事實で、彼等は瘍の癒えること驚くべき程早く、氏はこれを進化論上より考へて、蜥蜴などが其尾を失ふも、間もなく補はれるに比較し

た。この特質は總べての變質者に見られ、癲癇病者・痴愚者・悖德狂等に同じく見られるところである。

破壞性　而して彼等が、生物・無生物に限らず、これを破壞せんとする自然的傾向を有することは、屢彼等をして傷害・殺害・自殺に至らしめることがある。この破壞せんとする慾望は、兒童にも亦存する傾向である。ロンブローゾが取扱つて居つた或一人の癲癇病兒は、憤怒するや必ず手近の器具を投げつけ、其破片を二十五尺の高さにまで投げた。此種の實例は、決して稀有ではない、殊に室內に於て物品を破壞することは、普通の犯罪者に共通なことである。

潛在性癲癇と犯罪　この兩者の相關係することは頗る多く、ロンブローゾは、この種の場合を多く研究した、今其二例を擧ぐれば次の如くである。

Gは年齡十六歲で、黃色の皮膚を有し、多くの變身をなし、顏面並に身體には毛髮なく、頭骨は前右方傾き、眼の位置不正に、前額狹く、口の線猿の如く水平に、上顎の門齒は荒き犬齒のやうで、觸覺遲鈍に、痛感は右方に於て殆んとなく左方に於て極めて鈍く、膝蓋反射は右方に於て昂進し、左方に於て弱かつた。普通人の自然に有する感情を缺き、汝は母を好むやの問に對し、「煙草か錢かを呉れる時には」と答へ、又其犯罪行爲に就いて語られたる時に、何等の耻しさをも煩悶をも示さなかつた。然るに彼が十歲の時に弟を殺さんとしたことや、之れを妨害した母を擲つた事實を語る時には、却つて微笑して居つた。この子供の父は黴毒を患へる酒客で、Gは七歲の時から癲癇病に罹り、同時に酒を飲み、手淫を初め、菓子を買ふ爲めに兩親より錢を盜むやうになつた。又彷徨癖を得るに至つて、各地を歩き回つたが、一室に閉ぢ込めて置くと窓から飛び出し、烟突を匐ひ登つて逃れる工夫をした、けれども若しそれに失敗する

時は、忽に怒つて家具を破壞し、又は恐ろしい叫聲を立てゝ、隣人の注意を惹くやうにした。八歳の時に他人の家に雇はれる身となつたが、兩親の努力するに拘らず、何時も逃げ出し、遂に輕業師の仲間入をし、最後に屠殺場の恐ろしい光景に親しまん爲めに、自ら進んで屠殺者として雇はれるに至つた。十五歳の時に感化院へ入れられたが、二度逃亡を企て、放火せんとして二年の禁錮に處せられ、數日間癲癇性徴候が見え、自殺を謀つた。その後この癲癇性發作は、一年の間隔月に起つた。放免の時に彼に生活の方法を問はれたに對し、彼は笑ひながら、「人の袖には澤山の錢かありますよ」と平氣で答へた。

Lは年齢十六歳で、或信望のあつた一老人の子であつたが、道德上には狂者であつた。毛髮は豐に、前頭部低く、門齒密生し、犬齒は著しく發達して居つた。彼は家族の者に對する愛情を缺き、錢を與へられる時のみ父を好み、又時

時は憐れな老人を蹴つたり詐つたりした。錢の貰へない時には、家具を破壞して、已むを得ず家人に錢を與へしめるやうにした。又彼は觀念の變動甚だしく、或時は軍人にならんと欲し、或時は佛蘭西へ移民せんと欲した。十四歳になつて、亂暴者の集まつて評判の惡い家へ屢遊びに行つた。これ迄の事實にては、只道德上に缺陷があるといふのみで、外に特別な徴候はないが、十六歳になつた時、三晩繼けて同時刻に自分の寢臺の窓から外へ飛び下りやうとした。この時以來彼は健忘狀態に入るに至つた。かゝる自己破壞的の行爲は、癲癇性發作より起つたと見られるものである。然れども若し此種の事實が知られて居ない場合には、刑事家に最も大切なことであるに拘らず、注意されずに單に普通のものとして認められ終ることが屢あるのである。

尙アングルッチィ(Angelucci)の報告せる癲癇性悖德狂の一男子の例がある、

其男は屢何等の動機なくて人を毆打したる爲めに、數回處刑された。身體には裸體の婦人を文身し、頭は小さく、頭蓋竝に顏面は不對稱に、性質は虛榮に滿ち、詐を云ひ、激し易く、懷疑的の思想を有して居つた。この男が初めて癲癇性發作を現したのは、二十五歲を越えてからであつた。

普通の癲癇と犯罪性癲癇　かくの如くに犯罪と癲癇との關係は、一致するといはんより、寧ろ相因緣するといふべきである、卽ち癲癇は種々であつて犯罪と悖德狂とは、之れから分れ出でた屬と觀られる。されば生來性犯罪者は癲癇性のものといはれ、其解剖上・骨骸上・人相上・心理上・德性上、癲癇病者の有する特質と相違ないもので、其症候たる眩暈・嘔吐・感情昂進等をすら有することが多いのである。されども犯罪性癲癇病者は特別な性質を有し、殊に自分の爲めに惡行をせんとする慾望を持つて居る、これは普通の癲癇狂者にはないもの

である、この點より觀れば、癲癇のこの形式は、純粹なる神經異常とは、臨床上の症狀竝に治療方法を、共に區別して考ふべきものである。

且犯罪者に常に見られる神經異常は、一には隔世遺傳的のものと觀られるまでに、犯罪的傾向を强め、病的錯亂を生じて、運動に現れんとするものもあるが、又二には犯罪的衝動は左程に强くないが、然も常に知識や道德性を蔽ひ又混亂せしめるやうに、絕えず腦に刺激を與へて居るものもある。この癲癇病の二つの形式は、恰も結核病に於て、急激に來るものと、徐々として次第に襲ふるものとの二種類あると、略〻相類したものである。卽ち前者の、運動に現れんとする癲癇病は、刺激が急激に來るけれども、其刺激のない時には、普通の健康體のやうになり、發作每に精神錯亂を見るのである。これに反して後者の犯罪性癲癇病に於ては、この刺激が激烈な發作として現れることはないが、長

い間繼續して起つて居るから、次第に心身の狀態の全部に變化を生ずるに至るのである。

而して犯罪の癲癇性起因は、原因の不明瞭なる犯罪者の多くの特性を明かにするもので、生來性犯罪者及道德狂者の德性上並に身體上に於ける多くの特性は、不良行爲の習慣殊に鼻唇皺・顴骨皺・譏笑的表情・尖れる指等に依つて區別することが出來る。尙骨・毛髮・耳・眼・顎及び齒に於ける異常の多くは、個體發生の普通の法則に依り、低級種族の特質に符合するやうに胎內に於て發育したと觀なければならないが、斜頭・腦膜厚化・頭蓋不對稱・大腦層に於ける變化等は、癲癇に於けるが如くに、病症に依つてのみ說明し得られるものである。

生來性犯罪者と癲癇性犯罪者　かくて生來性犯罪者は、一種の癲癇病者であるが、この病者の普通の形式のものではなく、全く特種のものである。即ち

其病理學的基礎と組織學的・解剖學的並に心理學的特質は、相共通すれども、他に多くの相違點が見られる、即ち所謂癲癇性犯罪者には、運動異常を普通に見れども、生來性犯罪者には極めて稀である、又前者は發作に際して意識の混濁を伴へども、後者は發作も弱く且意識を失ふことが一般にない。尙又前者は必ずしも自己の爲めに不良行爲をなすに至るものにあらざるも、後者は如何なる時にも不良行爲に至る傾向がある。從つて生來性犯罪者は、癲癇の一變種と觀ることが出來る。されば生來性犯罪者は、癲癇病なる病者に過ぎずして、其病源は胎內にある時よりの病症に因り、又は或傳染若しくは中毒に因るもので、頭蓋骨・顏・齒・腦等に或變質的徵候を有し、殺人・竊盜其他の犯罪をなす原始種族に普通に見られる殘忍なる利己的性質に、復歸したものと考へられるのである。

第四節　精神病性犯罪者

一、一般的の精神病性犯罪者

癲癇病的生來性犯罪者及悖德狂者は、これを一面より觀察すれば狂者ともいふことが出來る、けれども此二者の外に、常に惡性又は危險性を有する生來よりの犯罪者ではなく、或偶然の機會に腦に變化を來たし、其道德的性質を全く錯亂せしめ、正邪の區別をなし得ざるに至れるものがある。これ等は眞に精神病者であつて、其行爲に對しては、全然責任を附し得ざるもので、この所謂精神病性犯罪者には次の數種がある。

白痴　これは其怒るや友達を毆打して死に至らしめ、性慾の昂進するや强姦を敢てし、火炎を見て喜ぶ子供らしさより放火するに至るが如きものである。

低能　これは前者よりも稍發達せる狀態にあるもので、自己の衝動に從ひ、他人のいふがまゝになり、些細なる報酬の爲めに、共犯者となり被教唆者となるが如きものである。

幽鬱病　これは壓迫的悲哀・上腹部擾亂・錯覺等より自殺をなし、時には自殺的計畫が間接となつて、或重要な人物・親族等を殺害して、自己の罪業を得んとし、若しくは生活の悲慘より救はれんが爲めに、自ら親める人を殺害するに至ることがある。

麻痺狂　これは屢窃盜をなすことがある、これ彼等が所有の意味を充分に解し能はずして、見たるものを何にても自己の所有物と考ふるが故である。されば若し窃取したることを訴へられる時には、其罪なることを否定するのである。又彼等は僞造・詐欺的破産行爲等をなし易く、之れに對して殆んと何等の羞

耻を感ずることなく、不自然なる性慾犯罪並に官吏に反抗する犯罪等も、彼等に普通見られるものである。而して殺人を行ふことは稀であるが、普通の人の考では理解されないやうな些細な希望から、放火を行ふことが少くない。

癲狂　これは精神錯亂の爲めに、自らは眞面目なるに拘らず、契約を忘却し、又腦の刺激性なる結果、屢激烈なる行爲・殺人等に至らしめることがある。時には一種の訴訟狂となり、官吏・裁判官を惱ますこともある。

癲狂に於ては、性慾昂進又は亂醉に至り易く、爲めに强姦をなし、公衆の面前に於て猥褻行爲をなし、又自己の不良行爲を滿足せしめん爲めに、殆んと悪事を自らなすの意識なくて、他人のものを竊取し、所謂盜狂の如きは、竊取せるものを何れも自己の所有物と信ずることがある。時には發作的に竊取を行ふやうに刺激され、彼等の或者は「余は手の指に或悪魔が居るやうな一種の不安

を感ぜられ、それが余をして他人の物品を竊取するやうに强ひるのである」と述べたことがある。

ペラグラ　一般の症狀として、何等の原因なきに、無考な殺人や自殺をなすに至ることがある。例へば水を見て、人を溺死せしめ、自ら水死するが如き之れである。

思春期・月經時　思春期に近寄れる青年及び月經不順の婦人は、屢放火をなし、猥褻的犯罪をなす傾向がある。これと同樣なることは姙娠の時に於ても亦見られ、殊に竊盜的傾向は、頗る普通のことである。

偏執狂　錯覺を有するものに於ては、空想的追究より逃れんが爲めに、往往殺人をなすに至ることがある、或は又この錯覺の爲めに、特殊なる形式の竊盜や放火を行ふことがある。例へば或伊太利人が、一年間幻想を惱みたる後に、

何の理由もなきに、其友人を殺害した如きはそれである。

精神病性犯罪者の特性　かくてこれ等の精神病よりする犯罪者の特性は、極めて顯著なるを以て習慣性犯罪者と區別することは比較的に容易である。即ち精神病性犯罪者は、習慣性犯罪者と異り、刑罰を恐れることなく、又これを逃れんともしないで、例へば窃盗ならば窃取せるものを公衆に示し、毒殺者ならば毒薬を被害者の室に殘し置くが如きである。即ち其行爲さへ完成すれば、もはやこれを隱蔽せんとは努めずして、直にこれを自白し、熱心に人に語り、却つてこれを賞讃すべきことゝ考へて居ることすらある。且又彼等自らは精神病者たることを否認し、假令裁判官若しくは同囚に精神病者といはれて、一時之れを納得することあるも、直に再び自己の犯罪行爲を誇張して得々と語る傾向がある。而して法廷に於ける自白は、完全に行はれるのが普通であつて、衝

動的偏執狂者・癲癇病者及狂的亂醉者に於ては、其自白の中に、精神病性犯罪者に特種なるものが極めて多く加はつて居る。

次に又精神病性犯罪者が、普通の犯罪者と相違するところは、彼等が犯罪をなすに至るまでは、全く法律に服從せるものなる點である。されども兩者の間に存する最も著しき相違は、行爲に對する動機であつて、精神病性犯罪者の動機は、其行爲に全く不釣合なるのみならず、殆んど常に不合理的なものである。今其標本的の場合を擧ぐれば次の如くである。

或男は、妄想から、自分の愛らしい子供を殺せと告げられる聲を聞いて家に歸り、少しも騷げる模樣なく落付いて、其子供の首を切り落した。

或園藝の知識のない一婦人は、自分の死せる夫の墓前へ草花を植えて置いたのに、二三日後にそれが萎れて居るのを發見し、必定園丁が熱湯を注いだもの

と考へ、園丁の近づいて來るのを待ち受けて、鍬で瘍を負はしめた。

この種の行爲者は犯罪行爲の前は勿論、其行爲に於ても全く精神の明晰なことが多い。けれども其行爲は全く衝動的であつて、普通の人に見られるやうな然るべき理由よりする或感情や或目的の爲めに企てたものではない。假令これ等の行爲者が、理性を有するが如きものであるとしても、其精神能力を充分に有して居つたとはいへない。かゝる現象は、知的作用・道德心又は意志力の突然な缺除に依つてのみ、說明し得らるべきものである。

二、特種的の精神病性犯罪者

上述せる一般的のものは、行爲者の道德的性質が一時的に變化したるものであるが、尙他に特種的と呼ばれるものがある。これは前者と異り犯罪行爲自體が、精神病の症狀の最も昂じたる時を示すものである。從つて此種のものは、

普通の犯罪者竝に普通の人と區別することも、亦前者の如くに容易でない。これ等の精神病は、分類して研究さるべきもので、酒精中毒・癲癇・ヒステリー等が其主なるものである。

(一)、酒精中毒

これには一時性のものと慢性のものとがある、以下に其大要を述べやう。

一時的酒精中毒　一時の酩酊が忠實にして穩和なる人を、亂暴者・殺人者若しくは竊盜者たらしめることは、よく人の知るところである。ガルは、酒精の刺激に因つて、殺人的傾向に至る實例を擧げ、ロカテッリ(Locatelli)は、或一人の勞働者が酒を飲む時には、身邊のものを破壞し、これを制止せんとするものあれば毆打する癖あることを述べ、又ラデルチイ(Ladelci)とカルミニャニ(Carmignani)は、酒癖の惡しき爲めに幾度も拘禁された或坑夫が、「余は酒を飲むと

喧嘩せずには居られない」と述べた事實を擧げて居る。

トリノで暫く拘禁されて居つたPは、酒精中毒者の好適例であつて、其父は酒客で妻を虐待した人で、Pは初め軍人となり、更に消防夫となり、後に病院の看護人となり、忠實にして溫和な人として知られて居つた。然るに其後酒の廉い土地へ轉居して、酒を飲むやうになつた、けれども未だ其度を過ごすことはなかつた。一年の後に病院の改革で暫く暇を得、其間に暴飲するやうになつて、五年後には酒精の中毒を見るに至り、或時獵夫に向つて警部なるが如くに裝ふて、其銃を捨てよと命じた。恰も其時に眞の警部が來て、捕へられて拘禁されるに至つた。放免されて後にも、これと同樣なる形式の犯罪を行つたことがあつた。

慢性酒精中毒　これは一時的酒精中毒よりも、刑事家の立脚地よりせば重

要なるものであつて、其症狀に就いて大に注意しなければならない。

身體上の異常として、習慣性銘酊者には、先天的變質を有すること少く、只後天的特性、殊に不完全麻痺、顏面麻痺、輕度の眼球突出、瞳孔不同、觸覺及び痛覺が一方特に舌に於て缺除し、溫覺脫失、感覺過敏、痛くないものに觸れて痛みを感じ、尿に尿素を缺き、一般の營養狀態が不平均で、外傷・中毒・興奮・病症等の回復する狀態を異にして居る。されども最も著しい現象は、肝臟・心臟・胃・輸精管及一般神經系統に萎縮若しくは變質があつて、殊に消化器に於ては、特種な胃カタル・嘔吐及び痙攣を伴ひ、生殖器に於ては、陰萎を生ずるのである。

精神上の異常に於ては、錯覺及び幻覺を見ること多く、それが恰も夢の如くに常に起つて、强い新しい印象を受け、多くは患者を迫害するやうなもので、例へば厭な動物・人の死體・其他恐るべきもの陰欝なるものを經驗し、時には幻

覺的な蟲に咬まれ、燐寸にて燒かれ、又は探偵や巡査に追はれて居るやうに感ずるが如きことがある。慢性酒精中毒より起る病理的狀態は、他の恐るべき幻覺を生ずることがあつて、皮膚の感覺脫失及び酒精中毒性の生殖機能缺乏の爲めに、患者をして往々生殖器・鼻・脚等を失つたやうに思はしめ、又消化不良・無氣力・不完全麻痺の爲めに、毒害され、迫害されたやうに思はしめることがある。時には又妄想より、重罪を犯して死骸の中に鎖で縛がれて居ると信じ、或は自己の妄想的な恥辱を脫せんが爲めに自殺を企て、或は恐怖困惱の結果、動きもせずに苦しんで居ることがある。他の精神病者と異つて、幽鬱的な沈思から狂的暴力を起して他人を殺し、又自殺するが如きこともある。殊に盜賊や猛獸と爭鬪して居るやうに思つて、突然に家の窓などから街道へ飛び出し、偶然に其時出逢つた通行人を殺害するに至ることもある。又類癲の發作の如くに、

精神錯亂が一時に起つて、恰も荒れ狂へる獸のやうに、毛髮を逆立て、齒を噛み、着衣を裂き、草を毟り、高い處から飛び下りなどすることがある。これ等の徵候は、眩暈・周期的頭痛・顏面充血に次いで起り、屢頭部に於ける外瘍・チブス熱・遺傳等が原因となつて起り、若しくは著しき興奮・永き斷食の後に起ることもあるが、必ずしも用ゐた酒精の分量には因らない。但し慢性酒精中毒に因つて生ずる腦の刺激に、關係して居ることは明かである。而して發作は數時間にて終り、患者は其時に於ける記憶を殆んと有して居ない。かくて其症狀は、癲癇に類似して居るから、假裝的癲癇の一種と考へられることもあり、又多くの酩酊者の中には、眞に酒精中毒性癲癇が見られる。

酒精中毒に因る犯罪　犯罪を行つた殆と總べての酩酊者の他の一特性に、奇異なる無意識狀態がある。但しこれは普通の犯罪者にも、見られるところで

あるが、其程度は頗る弱いのである。例へば拘禁されて居る間や、犯罪行爲の間には、全く平氣であつたのに、裁判官の面前へ立つと、一時に昏睡狀態から覺めて驚くやうなことがある。

或一人の敎育ある人は、醫者・藥劑師・書記等の職に就いて、何時も酒の爲めに解職されたが、或日街道で巡査に逢ひ、自分が拘禁されるものと誤信してこれを殺害し、遂に捕へられて入監したが、最初に其母へ向け髮油を送つて呉れと書狀を出した。尋問された時に、彼は豫審判事に向つて尋問の要はないと答へて居つたが、在監數ヶ月後になつて初めて我に歸つた。

此無意識狀態は衝動性と變化し、假令患者が犯罪者たることに心附ける時に於ても、自制することは不可能となるのである。

酩酊者に特殊なる犯罪として注意すべきことは、生殖器の變形が錯覺・幻覺の

普通の原因をなし、又屢性慾的昏睡の一種に惱まされ、其間に罪ありと自信せるもの、殊に普通自分の妻を殺害するに至ることがある。尤もこれは一には妄想の性慾的なるに因り、二には彼等の家庭の窮苦に因るもので、酒精の爲めに經驗された空想的な愉快な事實と、實際の事實との著しい相違を感ぜしめ、酩酊者をして益々幽鬱に至らしめる結果である。

ーリノの監獄に此種の犯罪者が二人居つたが、其一人は六十歲の老人で、他の一人は青年であつて、共に自分の妻を最も殘忍な仕方で殺害した。其原因は、妻が何等恥づべき生活をなさざりしに拘らず、彼等は何れも其不貞節を信じたからであつた。

酒精中毒の經過は、其極點に達すると、遂には全く理性を失ひ、麻痺狀態に陷り、身體は初期には肥滿すれども、後には筋肉痩せ、肝腺及び脂肪腺の分泌

過度なる爲めに皮膚滑濕となり、着衣を汚すに至る。記憶は減退し、言語は不確實不完全となり、觀念の聯合は遲鈍となり、感覺は鈍く、認識は錯雜し、判斷は誤り易く、規則正しく連續せる活動は不可能となる。初期に見られたる錯覺・幻覺は曖昧に且永き期間を以て再現し、麻痺は多少急速に普通となつて、遂に死に至るのである。

（二）、心的癲癇

前に癲癇性犯罪者の節に於て述べた癲癇と、幾分か其趣を異にした一種の癲癇病がある、即ち生來の道德狂者であつて、然も其剛愎と其責任能力なきことの、明瞭なる區別が出來ないで、監獄や精神病院に收容されて居るものがある、或は甞て危險の原因であつた爲めに、社會はこれを隔離しなければならないやうなものもある。而して此種の者に共通した點をいへば、記憶と意識とを全然缺けることであるが、時には意識を充分に有し若しくは部分的に有して居る場合もある、されども患者は其行爲に對しては責任を有せざるものである。この癲癇の變種は、サムト(Samt)に依つて心的癲癇と呼ばれ、主に精神上に異常を有するもので、其發作は永き間隔を以て起り、時には一生に一回しか起らぬこともあるが、二三回起る場合が最も多く、其發作の間は全く其人の人格に變化を生ずるものである。

特徴　サムトは、此發作の特徴を擧げて、次のやうに述べて居る。患者は發作の間は、恰も夢遊者の如き狀態となり、時には眩暈を感じ、無言・不動となり、又時には絶え間なく語り、或は時に普通に業務に從事し・旅行し・讀書し・書狀を認めることあるも、其時の人格は、全く變態であつて、其習慣・行動・手蹟等まで、異つた性質のものとなるのである。時には彷徨癖に陷りて數哩を旅行

し、或は限りなき汽車旅行をなすことすらある。ティッシェ(Tissié)は、或る癲癇患者が、パリからボンベイまで旅行して、三十一ヶ月間も無意識狀態に於て經過した事實を擧げて居る。而して癲癇は、往々只に目的なき旅行をなしたといふ點でのみ、說明されることがある。此癲癇の彷徨的形式のものは、十四五歲の靑年に於て最も多く、金錢を所持せずして行先不明となつた子供の搜索願が、警察に呈出されることは決して稀有なことではない。其發見されて後に何の爲めに彷徨して居つたかを尋ねられる時には、子供は家出してより自分の身の上に起つたことを更に知らないのが普通である。

心的癲癇に因る犯罪　これ等の發作は、數分時より數ヶ月の經過の後に終るもので、今發作が三週間連續した或患者の例を見るに、其患者は靑年士官であつて、極めて溫和な人であつたが、突然書記狂となり、無數の書狀を認め、

それを目的なき二週間の旅行の間に、諸處の町で發送した。然るに或日脫走者として捕へられ、又其行爲を說明することが出來なかつた爲めに、遂に拘留に處せられた。この患者は、其發作の形式が頗る溫和に表はれたけれども、或他の患者は同じく癲癇の發作に於て、何等の目的なきに殺人に類する犯罪行爲を敢てした、然るに其發作の經過後は、その行爲に對して何等の記憶なく、性質も極めて溫順で、法律に反するやうな行爲をする人でなくなつたのである。かゝる場合に、行爲の性質を眞に本源にまで溯つて硏究し、その病症を發見することは頗る困難である、何となれば癲癇病者の有する他の徵候を有せず、又特種なる犯罪行爲とも異つて居るからである。

尙サムトは、錯雜せる心的癲癇を擧げて居る。それは意識を失ふことなくして、人格の變換するものである。嘗て四十年間も忠實に社會に下男が、或夜他

の下男へ通ずる呼鈴の電線を注意深く切斷して置いて、其老主人を殺害したことがあつた。その下男は一時其の場を逐電したが、數日の後に歸つて自ら警察へ出頭して、何の恐怖も後悔もなく、犯罪に關する事實を精細に自白し、裁判に附せられて遂に刑を宣告されたが、數ヶ月後に再び癲癇發作を起して遂に死亡した。サムトはこれを研究して、彼が殺人罪を犯したるは、全く癲癇の發作の間に行ふたもので、これが證明には必ずしも意識の缺陷を必要としないと述べて居る。

かかる種類の發作には、往々血液の飽き足らざる喝望・破壞・亂暴並に筋力の異常なる發動を伴ふことがある。此種の發作は、數分時より半時間も繼續し、發作後は熟睡に入り、其時に起つた事實を忘却し、只微なる回想を留むるに過ぎない。

嘗て伊太利にMなる者あり、その兩親は變質性のものであつて、不對稱・血液運動の錯亂・衝動性・殘忍性等の癲癇特有の性質を有し、二十歳の時に兵士となり、或普通の動機から突然に發作を起し、上官と彼を靜めんとした十名許の兵士を殺害した。Mは直に捕へられて營倉へ投ぜられたが、程なく熟睡に陷り、覺めて後には何をしたりやを更に知らなかつた。かくてMは一度死刑に處せられたが、ロンブローゾはこれを醫學的に研究して、Mが全く癲癇の發作中に犯罪せることを確めた。

癲癇の此種の身的竝に心的特性は、犯罪をしない總べての癲癇と共通であつて、彼等は犯罪者といはんよりは、寧ろ精神病者といふべきものである。何となれば彼等は此恐るべき形式を取る發作以外には、何等の犯罪的傾向が無いからである。

(三)、ヒステリー

これは癲癇に連合する病症で、其現れ方は癲癇よりも穏和であつて、殊に婦人に多く、男子の二十倍もあるのである。尚又癲癇の如くに、遺傳に因ることも多く、癲癇・神經病・酒精中毒等の兩親より受け繼ぎ、又はチフス・腦膜炎・打撲・墮落・驚愕等の爲めに起ることもある。

身的並に機能的特徴　其身的特徴は、癲癇に於ける程に多くなく、只眼が小さく斜に位置し、臆病な眼付を有し、皮膚青白く、延びた顔、集まつた若しくは疎な齒、顔面及び手の神經的運動、顔面不對稱、並に黑き髮を有するのが普通である。

その機能的特徴には、注意すべきもの多く、磁性ある銅・鐵・金等に特種な感を有し、喉頭無感覺にして、神經痛が或部位に於て突然に消失して、又他の反

對の部位に生ずることあり、身體の一方に運動若しくは感覺の異常あり、異れる色彩を錯雜して感じ、或身體部位の感覺が昂進して、壓に對して神經病的現象を起し、苦痛の存在を喜び、咽頭反射運動は癈弛し、身體の或部位に溫度の感覺を失ひ、一種の發作に至る傾向がある。これ等の徴候は、豫告的症狀に次いで起るもので、其症狀の主なるものは、錯覺・幻覺・性格の急激な變化・收斂・咽頭痙攣・斜視・頻繁な吐唾・不規則な笑と欠伸・心悸動・無力・戰慄・感覺脫失等であつて、尚發作前には或身體部位殊に頭・頸等に疼痛を覺えるものである。

心的特徴　心理上の特徴には頗る注意すべき興味あるものがある。即ち全體として、注意の集注力は不充分であるが、相當な知力を有し、自負心強き故に總べてのことを著明にせんと努め、又極めて印象性のものなるが故に、容易に憤怒して殘忍なことをなし、突然に何の理由なきに好惡の感を起すことがあ

る。常に移り氣がして、容易に偏見を懷き、他人を誹謗することに特別な興味を有し、若し復讐の手段として求めた他人の隱れた惡事が、公衆の注意を惹かなかつた時には、絶えず喧嘩腰になつて、あたりの人を苦しめんとする傾がある。

而して刑事家に最も必要なものは、ヒステリー性婦人に於て暗示感性の極めて強いことである。暗示に支配された婦人は、全く自己の意志の力を失つて、暗示者の意志の儘に動き、時には殆んと男子の如き狀態にもなり又時には奇異な衝動的な觀念を得、犯罪的觀念をすら得るに至るのである。即ち彼等は全く從順な自働機となり、自己の性格に反するが如き行爲を制止することが出來ず、假令生來は誠實な人であつても、犯罪をなし又は秘密を發いたりするに至るのである。

殊にヒステリーの著しい特徴は、氣分の變化し易いことで、リシェ(Richet)は「涙の乾かぬ先に笑ひ出す子供のやうである」といふて居る。彼等の感情は容易に變化し、一語を以てよく眞實なる不幸に遭遇せるが如くに悲しましめることが出來る。彼等の衝動性なることは、知力の缺乏に因るにあらずして、急激に活動に移るからである。而してかかる變化性の反面には、又或觀念の奴隷となつて、それを脱することの出來ないことがある。嘗て或婦人は話をなし、又は運動する時は、自分の身を害されるといふやうに考へられて、數ヶ月間全く啞者となり、少しも動かなかつた。これは彼等の不變化性の一形式であるが、それでなければ怠惰であつて、時には數日間活動して、再び怠惰となるものもある。

性慾的忘想。もヒステリー患者に見られ、これは殆んと病理的徴候であつて、先づ上腹部に風に吹かれるが如き感覺があつて、性慾的幻覺又は夢魔を感ずる

場合が多い。此性慾妄想は頗る衝動性であつて、突發的な感情を經驗し、冒險的希望から、屢姦通をなすことがある。かくてヒステリー患者の犯罪は、性慾作用に常に關係して居る。誹謗に關する犯罪をなした二十一人の婦人の中、九人は强姦の虚僞の訴をなし、四人はその夫の性慾の激しきことに就き、一人は獸姦に就いて訴へた。かかる訴が、未丁年者に依つてなされる時は、成年者の厭ふが如き事實に滿ちて居るのが普通である。

嘘言。も亦ヒステリー性婦人の一特性であつて、只他人を僞いて信ぜしめる點に愉快を感ずるのである。彼等は自殺を叫び、病氣と詐り、無名の書狀を認め、又憎怨や虚榮より雇人の不忠實を訴へて、これを耻かしめる。けれども好んで行ふ讒謗は、常に不作法な習慣に對するものであつて、時には兩親や兄弟に向つてすることあるも、僧侶若しくは醫者に向つて行ふのが一般である。其

訴は頗る奇異にして空想的のもので、信用する價値のないものであるが、時には不幸にしてそれが信用されることがある。彼等が此讒謗を擴める手段は、無名の書狀を以てするのが最も普通である。

例へば二十五歳になる上流の一令孃は、艶書を以て或高貴の僧侶を惱まし、後には其僧侶が自分を誘惑したといふ名義で訴へた。

又十八歳になる或少女は、屢不道德な僧侶の犧牲にされたと檢事に告げ、從兄が其共謀者であると訴へた。その語るところに依ると、「私が寺院に祈禱をして居ると、僧院長が聖房へ連れて行き、共に西班牙へ出奔せんと誘つた、けれども私がこれを拒絶したから、彼は私を慰めん爲めに私の面前で二度も自らを刺した、それを見て私は氣が遠くなつたが、心づいて見ると彼は私の足下に跪いて寛赦を乞うて居つた」。尚彼女は、從兄に連れられて僧院へ行つた爲めに、

尼僧までが共謀者として働いて僧侶に誘惑されたとて、その從兄をも訴へた。後に彼女は、注意深き醫學的診斷の結果、誘惑の事實は無根であつて、ヒステリー患者たることが證明された。

これと類似せる例で或伊太利の將軍の十六歳になる娘は、隣に居る尉官が誘惑的言辭を語ると父に訴へたが、其の後程なく無名の書狀が來て、其母の戀愛に關する暴露、其娘の脅嚇等があつて、家庭の平和を害したことがあつたが、後にこれ等の書狀は、何れも其娘の書いたものであると知れた。

此無名の書狀を認むるのは、ヒステリー患者の一特徴であるが、其手蹟が一種特別な性質を有し、文字が著しく大きな形より、著しく小さな形に變化するのが常で、癲癇に見られるのと同樣である。

ヒステリーは、癲癇の如くに屢幽體症若しくは偏執的精神錯亂狀態となるもの

で、モーレルは他の病的現象はなくとも、此症狀は屢見られるというて居る。又癲癇の如くに心的ヒステリーなるものもあり得るので、これは身體上に何等の特別なヒステリー性發作なく、然も社會に對しては頗る危險なものである。

要するに從來の醫學者は、ヒステリーを癲癇と全く異つた一種の病症と考へるやうになつて居つたけれども、ロンブローゾはこれを周密に研究したる結果、婦人の間に流行する癲癇の一變種と觀るやうに傾いたのである。

第五節　偶發性犯罪者

犯罪者の中で、酒精中毒・癲癇等の病症の爲めに、心身に變質を來たして犯罪者となれるものに就いては、上述した通りであるが、尙この外に精神病者にも悖德狂にもあらず、又生來性犯罪者にもあらざるやうなものが少くない。この

種のものはロンブローゾの統計に依れば、犯罪者の百分中三三あつて、恰もロンコロニが、犯罪者中に見た組織學的異常者の割合と同樣である。

境遇　これ等のものは、假令癲癇に類似するものであつても、病症の程度が普通に癲癇といはれるものよりも弱く、從つて或特別な犯罪原因がなければ、犯罪をなした事實の說明されぬ種類のもので、制遏的中樞が幾分か不完全ではあるが、決して全然存在しないのでない、從つて健全なる圍繞界・注意深き敎育・勞働の習慣・道德的性向及人たるの感情等は、これ等の人をして不忠實な衝動に至ることを防がしめ、犯罪に陷るやうな特種な誘惑を常に豫防したのである。

敎育は犯罪者を忠實なる人たらしめる上に、充分な力を有して居ない、又これに反し誘惑や窮迫や敎育の缺乏も、忠實なる人を犯罪者たらしめる力はない。暗示作用に最も有効な催眠術も、善良なる人を催眠中に犯罪せしめることは出

來ない。けれども不正なる訓練は、意志薄弱にして境遇に應じて善惡の判別をなし能はざるものに、大なる影響を有するものである。かゝる性質のものを、ロンブローゾは特別に分けて偶發性犯罪者となしたのである。

特徵　偶發性犯罪者の身體的性質に於ては、特別な骨格的・解剖的若しくは機能的徵候はない。されども生來性犯罪者の有する典型の程度の低いもの、例へば頭蓋骨・毛髮・耳・眼・齒・唇・腱・手・足等に於ける異常、感覺異常、觸覺竝に痛覺の遲鈍、磁氣竝に天候に對する鋭敏なる感知性等は幾分か見られる、けれども これ等の異常が、生來性犯罪者に見られるが如き多くの割合に、此偶發性犯罪者にないのが普通である。卽ち後者は生來性犯罪者竝に悖德狂者を識別し得られる程の心身上の特徵の總計を、明かに有しては居ない。のみならず偶發性犯罪者には生來性犯罪者に見られないやうな特徵、例へば靑年にして白髮又

は禿頭なる者がある。要するに偶發性犯罪者と生來性犯罪者との眞の區別は、身體上より寧ろ精神上に於て著しいのである。

犯罪者の精神上の特質を考察する上に、最も注意すべきは、犯罪をなすに至つた年齢と、犯罪をなすに至つた動機とであつて、生來性犯罪者は、幼兒の頃より犯罪的傾向があつて、其動機も極めて、普通なものである、然るに偶發性犯罪者は、比較的後年に於て犯罪し、その動機も亦相當な理由を有するものである。

例へば某は、頭蓋骨や顏面に何等の變態を有せず、多年忠實なる生活をなして居つたが、業務上永らく留守にして置いた家へ歸つて見ると、自分の妻が家財を奪つて逃走したことを發見した、それ以來彼は不忠實な生活を送るやうになつて、遂には窃盗團體の首領となつた。又或彫刻師は、前額が引込んで居る

以外に、何等の病理的異常はなかつたが、或時或團體から賞牌の製造を依托された、然るに其賞牌は偶然にも其國の通貨と酷似して居つた爲めに、遂に通貨の僞造を計企するに至つた。

而して最もよく此特質を示して居る實例は、Oの場合であつて、Oは立派な容貌を有し、普通の嗅覺・觸覺竝に痛覺を有して居つたが、神經性竝に精神病性の遺傳があつて、後に搔搦的癲癇となつた、其他頭蓋竝に顏面の不對稱、視野に於ける昏瞑、腕の異常なる長さ、腱反射の昂進等の或變質的徵候があつた。三十歳に至るまでは、非難すべき生活をしなかつたが、生來その缺點といふべきは自負と吝嗇とであつた。Oの結婚した婦人は、實際上腐敗して居なかつた家庭の娘であつたが、性粗野にして不信實に、且不注意にして浪費的であつた。妻のこれ等の缺點と、嘘言をいひ術策を弄することは、遂にOをして誤たし

めるに至つた。或時Oは不快を感じ、病氣の發作の起るべきを豫想したから、妻を呼んで看護を依頼したところが、親切な返事をしなかつた爲めに、Oは怒つて床より飛び上り、小刀を取つて妻を刺して、直に深い睡眠に入つてしまつた。覺めて後Oは、その罪跡を煙滅せんが爲めに、其妻の死體を寸斷して行李に收め、これを海中へ投じた。二ヶ月の後にOは捕へられて、直に逐一自白し、其兇行に對しては著しく後悔の念を示し、被害者を哀れむの情頗る深く、その感情を自ら詩に作つた。尋問に際しても、何等自己辯護をなさず、證據を聽いて居る間に、非常に興奮して、遂に癲癇の發作を起した。かくて陪審官の辯護に依つて赦免され、以前と同じく帳簿係の職に就いたが、その後何等法律に反するやうな行爲を敢てしなかつた。

躊躇と後悔。偶發性犯罪者の他の特質は、犯罪行爲をなすに際して躊躇することであつて、殊に初回の犯罪に於て著しい、但し躊躇の見られない時は、上述の場合の如くに、癲癇の發作の間に犯罪を行ふのが普通である。フォイエルバッハ(Feuerbach)の擧げて居るK兄弟の場合はこの適例であつて、彼等の父は下等な婦人やその私生兒に對しては金錢を浪費するに拘らず、自分の妻や家族に向つては殘酷に取扱つて困窮に陷らしめた。されどもK兄弟は、家を逃亡して憐れな母を父の兇暴に任せて置くに忍びなかつたが、日常此狀態を見て兄弟の一人が、此兇暴なる父を暗殺せんことを主張した。非常に躊躇したる結果、此主張が遂に實行された。然るに捕へられた時には、兄弟は直に其罪狀を殘りなく自白して、深き後悔の情を示した。

自白。彼等の一特性として自白を容易になすことである。嘗てCが外國から歸省して見ると、自分の妻であつた婦人が、自分の父と結婚して居るのを發見

したが、又それと相通ずるに至つた。然るに其婦人は、誹謗されるのを恐れて、何か適當な口實がなければ此儘では安んじて日が送れないから、入水して死ぬ。とCを嚇した。Cは元來、父を好まなかつたから、恐ろしくも父を毒殺し、父の所有せし貴重なもののみを携へて、其婦人と共に出奔した。一年の後に、其婦人が死亡したから、Cは歸省して先づ初めに妹に向つて自己の罪狀を悉く自白し、更に法廷に出でゝ自白した。

道德的感情。生來性犯罪者が、薄弱な憂鬱な不平準な心を有し、道德の感なく好んで嘲笑するに反して、偶發性犯罪者は、一般に清澄にして平準を保てる心を有し、犯罪に對し前者が殆んど無感覺なるに反し、後者は犯罪に陷りて深き悲哀・羞恥及び後悔を感じ、爲めに病氣となり又自殺するに至ることすらあるのである。このみならず自然的情緒並に其他の感情も普通である。又犯罪者に對、

しては、生來性犯罪者と異り、着しき嫌惡を以てし、これ等と相接觸するを好まずして、寧ろ獨居拘禁を欲して居る。

實例　社會的地位並に敎育に於ては、偶發性犯罪者は社會の總べての階級より發生し、其罪質も、些細なる竊盜より人をして驚かしめる殺人罪に至るまで、又通貨僞造より社會上に不測の害惡を及ぼす大詐欺に至るまでに及んで居る。而して其犯罪に於て、機會が主要なる原因をなす時は、必ず特殊な誘惑に接して居つた人に依つて、犯罪が行はれて居る。

例へば常に他人の金錢を取扱へるものは、何時にても返濟し得られるが如くに考へられ、それを融通して遂に橫領に陷るが如きはそれである。かくて充分に才智があつて、其上幾分の犯罪的傾向ある人は、動ともすれば重大なる詐欺行爲を敢てするに至るのである。嘗て五十萬圓の通貨僞造をした大藏大臣S卿

の例は好適例であつて、自らこのやうにいうて居る。「次第々々に限りなき悪事を敢てして、一萬以上の家族を窮迫に陥れた余の罪は、如何なる刑罰を以てするも充分ではない、若し余にして才少く正直なりしならんには、忠實なる人として終つたであらう、今となつては如何に悔ゆるも其甲斐なし」と。實にS卿は、偶發性犯罪者の有する總べての特質、例へば後悔・自白せんとするの念・立派な經歷・不忠實に對する強き誘惑・秀れたる才能等を有して居つた。假令S卿の行つたことが、生來性犯罪者の行ふ犯罪事實よりも、著しく悪しく且大であるとしても、其犯罪に至るべき傾向は、特別に強かつたとはいへないが、然し善に對するが如く悪に對しても、著しい才能は有して居つたのである。

時には政治的若しくは商業的犯罪者に於て、自己錯誤を爲したる爲めに、犯罪者となることがある。例へば發明家が自ら發明したりと考へ、或は發明に近づけりと信ずる機械があり、又發明人が大利を得られるものと想像せる計畫があり、時には被害者が貪慾にして一攫千金を得んとする考へから陥る詐欺があり、又時には立案者自らが著しき興味を以て、それを成功せしめん爲めに努力して居るやうな戯弄もある。

嘗て善良な家庭に育ち、才能あり忠實な語學者でCといふ青年があつたが、其容貌は秀れて、何處にも犯罪者たる有樣は見られなかつた。然るに二十歳の時に賭博の興味を覺え、其慾望を滿足せしめん爲めに、或富有な自分より年長な婦人と婚約して、大金を借りた。勿論其借金は、程なく返濟されることゝ信じて居つたところ、其後暫くにしてCは、或若い娘と相思の間となつて、程なくそれと結婚した。そこで前の婚約した婦人はこれを法廷に訴へ、遂にCは二年間の拘禁に處せられた。其間彼は他人と面接することを避け、同囚と接近し

ない爲めに、勞働に出づることを拒んだ。自分の妻に對しては强い愛情を有し、改心せんと誓つた、けれども婦人を詐つたことに就いては、餘り後悔して居なかつたやうである。出獄後倫敦へ行つたところが、金錢に窮して詐欺を働き、漸くにしてネープルスへ逃亡し、十二年の間大旅館へ入つて忠實に働いて居つたが、再び金錢に窮して第三回目の詐欺を行ふに至り、遂に再び入獄する身となつた。これ等々其犯罪の原因は偶發的のものと觀るべく、生來性の犯罪といふことは出來ないのである。

而して偶發性犯罪者の中に屬して、特に注意すべきものに次の二種がある。

一、習慣性犯罪者

監獄生活の衰壞的影響と、卑俗なる犯罪者との接觸、若しくは酒精の過度な

る飲用は、人の良心を麻痺せしめ、初めには嫌忌と躊躇とを以て犯罪を敢てしたる偶發性犯罪者をして、遂に習慣性犯罪者たらしめるのである。

特徴　習慣性犯罪者は、身體上に於ては生來性犯罪者と殆んど類似するところはないが、間々生來性犯罪者の有する一二の徴候を有して居ることはある。其他不快なる皺や瞞著的にして卑屈な容貌の如き後天的性質を、相當に明かに有して居る。

精神上に於ては、生來性犯罪者と相類似する傾向があつて、その習慣・趣味・隱語・文身・噪宴・怠惰等は兩者に相通じ、恰も田舍で廣い他の社會と離れて生活して居つた老夫婦が次第に相似て來て、其習慣・態度・聲の調子まで、相類するに至ると同樣に、次第に接近して發達するのである。

實例　偶發性犯罪者が、習慣性犯罪者となつた好適例は、婦人に對して賜

點を有し、爲めに先づ放逸漢となり、次に竊盜となり、更に殺人者となつたE の場合である。Eは長き突出した耳・前額の不對稱・突顎・著しき短頭顱・長きに失する伸手長等の特質は有して居たが、一般の犯罪人型は有せずして、齒列正しく、鬚多く、頭髮は少かつた。Eの精神は、恰も其身體上の特性と相符合し、少年期及青年期に於ては何等異狀なく、只性慾の昂進が普通の人よりも著しかつたに過ぎない。又惡事の爲めに惡事を好むといふやうな徵候はなく、要するに殺人犯罪者の特性は無かつた。性格全體としては頗る快活で、滑稽を好んだ、けれどもそれと共に急激に憤怒に至り易き傾があつた。彼の異性に對する慾望の極めて强度なることは、彼をして良心を麻痺せしめ、其滿足を得んが爲めに放逸漢となつて、自分が働いて得た金錢を悉く消費し、遂に殺人を行つたのである。尋問に際して、Eは亞米利加へ逃亡するに先立ち、自分の爲めに其

夫を棄てなかつた婦人を殺害せんと企てたことまで明かとなつた。Eに依つて示された極端なる浮薄は、彼と生來性犯罪者との間に、密接な關係のあるやうに思はしめる。彼は又快活から幽鬱へ、極めて急速に轉ずる特質を有し、智力はよく發達し、三四ヶ國の言語を話し、企てたことには大抵成功した、只彼は一つ仕事に永く從事することが出來なかつた。實業家として自分の資本を消費し、犯罪の實行に於ても浮躁と無頓著とを示した。自分の意に從はなかつた婦人の死骸を乘せる爲めに、リオンで馬車を雇ひ、恰も狂者の如くに自分の愛人と共に市中を乘り回はし、人通りの繁き場所に死骸を入れた行李を捨てた。Eは放逸な偶發性犯罪者のやうであるが、制御し難き性慾と、愛人との關係が、彼をして習慣性犯罪者たらしめたのであつて、彼には特に遺傳的素質はなかつたのである。

これは偶發性犯罪者が、次第に習慣性犯罪者となつた一例であるが、この種の事實は西班牙や伊太利で見られる賊匪に普通なことであつて、彼等の首領ともいはれるものが、生來性犯罪者たることは稀で、其若い時分の經歷を調査して見ると、善良な性質を有し、充分法律に從つて生活し得たものであることが多く發見されるのである。

密商將軍として名高かつた賊匪Mは、各地方に於て同情と愛情を有する人として記憶されて居る。Mは、嘗て佛蘭西から租稅徵集の權利を賦與せられて人民を壓迫した小作人取締に對して、反抗した經歷を有する點より觀れば、上の事實は決して怪しむに足らない。Mは初年時代には、何等邪曲の點なく、犯罪的特性をも有して居なかつたが、小作人取締に不正に取扱はれた爲めに賊匪となり、初めに小密商團の首領となつて、大いに租稅官吏や憲兵を恐怖せしめた。

彼は密輸入した物品を公然と町や村落の近傍へ携へ來て、人々に買はしめ、又租稅官吏の干渉なく賣買を行はしめた。これに對して租稅官吏は嚴命を發して、一切密商の物品を買ふものを處罰すと布告した、それに對しMは、官吏自ら商品を買ふやうに勸め、租稅官吏をして、常に密輸入の物品を廉價に買はざるを得ざるに至らしめんと宣告した。

又賊匪ガスパローネの如きも、シシリー人の間には非常に尊敬されて居つた人物であるが、矢張り上述の如き性格を有して居つたのである。

二、法律的犯罪者

法律的犯罪者は、其性質邪曲なる爲めに法律を犯したのでなく、全く單純なる機會から偶然に犯罪するに至つたもので、これには次の二種がある。

無意識の犯罪　無意識に殺人をなし又は放火を爲せるものゝ如きは、全く

偶然の不法行爲であつて、輿論や人類學者はこれを犯罪者とは考へない。けれども法律に依つて、當然罰を受くべきものである。固より此種類に屬するものは、心身共に普通人と何等相違するところなく、只一般に彼等に於ては慎重・用心・先見を缺いて居るに過ぎない。

社會に危害なき犯罪　社會的には殆んど何等の危害なく、又一般に犯罪と思惟されて居ない行爲であるが、然も法律上で禁止して居ることを犯したる如きもの、例へば惡しき言語・煽惑的文書・無神論・酩酊・習慣の逃避・些細なる私法違犯等は、これに屬して居る。然らば如何なる行爲がこれに該當するかを、一一摘出するのは、其繁に堪えない、玆には亞米利加に於て擧げられて居る場合を例として述べんに、吐唾・飲酒・窓の近くに於ける裸體・呪罵・日曜に於ける娯樂場の開場・法律に依つて禁止された時日並に場所に於ける商業等は、何れも法

律的犯罪であつて、これを犯したものは禁錮若しくは罰金に處せられるのである。

特徴　而してかゝる行爲を敢てするものは、普通人と何等の區別の見られない場合も屢ある、されども一般の生來性犯罪者並に偶發性犯罪者は、本能的に法律に違反しないやうに努める普通人に比較すれば、より多く此法律的犯罪者となり易いのは、今更いふまでもないことである。

次にこれ等の不法行爲を判斷する上に困難なることは、其行爲の動機を、注意深く考察しなければならぬ點である。卽ち忠實なる個人に依つて何心なく行はれたるか、又は普通犯罪者の不良行爲と同樣なる心理狀態に於て行はれたるかを、明かに區別しなければならない。この區別を診斷するには、主に行爲者の過去の來歷を調査しなければならない。

法律を知らずして行ふ犯罪　尙法律的犯罪者の中には、或行爲が法律に違反するといふことの一般に知られて居ない時若しくは地方に於て、何心なく行はれた場合がある。例へば田舍に於ける薪材の窃取・魚鳥の密獵・商業其他の職業上に於ける不忠實なる取引等はそれである。又革命・戰亂・一揆等に於ける窃盗・殺人竝に新領土及び鑛山の征服竝に移民の如きも、亦此種類のものである。

ロッシュフォール(Rochefort)並にホイットマン(Whitman)は、濠太利亞竝にカリフォルニアに於ける金鑛熱の盛なりし時には、著しく犯罪者數を增加したというて居る。天性善良なる人も、最も有利なる地權を得んとするに際しては、恐ろしき爭鬪をなし、不秩序なる躁亂をなすに至るものである。一九〇〇年に於ける歐洲人の支那遠征には、前には何等非難するところのなかつた兵士に依つて、掠奪が行はれたのである。

第六節　感情性犯罪者

感情性犯罪者は、かの兇惡にして自負的なる衝動の爆發より、犯罪行爲を敢てする上述した普通の犯罪者とは異り、他愛の純粹なる精神から、法律に違反するやうな行爲を敢てするものである。事實上、感情性犯罪者は、普通の犯罪者とは何等の關係なく、只法律上、同樣に取扱はれるに過ぎない、即ち犯罪を一つのスペクトラムと假定せば、感情性犯罪者は紫外線であつて、普通の犯罪者は赤外線に相當する關係である。かくて感情性犯罪者は、利己・無感覺・怠惰・道德感情の缺乏等の特性を有せずして、その異常なるところは、寧ろ高尙なる性質例へば、同情・他愛・廉潔・愛情等の過度に發達せるもので、その爲めに却つて過激なる行爲に至り、社會に危險を與へ、或は法律に反したことを敢てする

のである。

特徴　感情性犯罪者の身的特徴は、生來性犯罪者と全く相反する關係にもつて、容貌は多く美しく、豐なる額、眞面目にして穩和なる表情、多量の髮を有して居る、感覺は頗る鋭敏で、高度の興奮性と昂進せる反射運動とを有し、又普通の人々に見られる總べての性格を有し、その行爲の反社會的なる以外、何等普通人と區別すべきものを持つて居ない。

その心的特徴も、亦身的特徴に於けるが如くに、普通人と殆んど何等の相違はない、只吾人が善良にして神聖なりと考へる人々の性質を、過度に有して居る點に、幾分の相違あるのみである。

犯罪の形式。事實上感情性犯罪者の犯罪に至りし動機は、常に適當なるものであつて、却つて高尚なることもあり、又稀には崇高なる場合すらある。

例へば自己の妹を愛する餘りに、それに耻辱を與へたものを殺害し、羞恥に堪えざるより私生兒を其の母が殺し、姦通せる妻を其の夫が殺すが如きはそれである。或は又愛國心の爲めに、從來の行爲に於て何等非難すべきところのなかつた人が、他人を殺害するに至るが如き場合もある。

而して此種の犯罪者は、犯罪行爲の後自殺すること多く、若し自殺を妨げられたる時には、悔悟せる殉教者となつて、其罪を自ら償はんと欲することがある。次に其犯罪行爲は、殆んど常に豫謀することなく、公然と行ひ、且共犯者もなく、兇行に使用する特別なる器具なく、多くは手や爪や齒や鋏や杖などの持ち合せものを以て行ふのが常である。

犯罪に至る動機は、一般に眞面目なるものであつて、動機となる事實が發生して程なく犯罪するのが普通である。かくて或者は激昂の原因となり更に犯罪

の動機となつた風聞を知つてから、數時間後に犯罪し、又或者は只數分の後に犯罪した場合もある。從つて此種の犯罪者では、其犯罪に關して豫謀するが如きことなく、數月・數年の後に犯罪の行爲に著手するといふやうなことはない。

而して此種の犯罪者の百分中九一は殺人者で、其中には嬰兒殺の幾分か含まれて居る。尙窃盗・放火は百分中二に過ぎない。例へば貧窮に迫まられたる結果、保險金を得んが爲めに放火した少女があつた、又敎育あり性行の正しかつた一婦人は、家運の傾いた爲めに、子供の學資金に窮して窃盗をなしたが、自分の名が世上に發表されては子供の不名譽とならんことを虞れ、法廷で名を自白することを拒み、審問の後數日を經て悲痛の極遂に死亡した。これ何れも此種の犯罪者として、比較的に少い場合の實例であるが、かゝる事實は往々見聞せられることである。

かくてロンブローゾの所謂感情性犯罪者は、寧ろ善良なる感情の極端に及んだものをいふのであつて、嫉妬・憤怒・憎惡等の如き不良な感情が極端に渉り、行爲の動機に關しては殆んど何等同情すべきものゝ認められないやうな場合のものは、この内へ入れてない。いふまでもなく、かゝる犯罪行爲も感情が主なる動機であるから、これを感情性犯罪者といふて更に差支はないが、ロンブローゾの考へでは、かゝる惡質の感情性犯罪者は、稟性既に惡性のものであつて、これは前述の生來性犯罪者乃至精神病性犯罪者の何れにか屬すべきものと觀るのである。從つて同じく感情に原因を有する犯罪者であつても、明確にこれを區別して居るのである。

第七節　政治的犯罪者

感情性犯罪者と相類して、特別に研究すべきものに政治的犯罪者がある。ロンブローゾはラッシ(R. Laschi)と共に、特に『政治的犯罪並に革命』(Il Delitto Politico e le Rivoluzioni, 1890)なる一書を公にして居る。

原因　政治的犯罪は、その犯罪たる點に於ては、他の犯罪と何等異るところはないが、其本質に於ては注意すべき相違がある、從つてそれが原因にも、他の犯罪の場合と區別して考ふべき多くの點を有して居る。

(一)地方的關係。氣壓の低きことは、この種の犯罪に重要な關係を有し、革命的の人の多くは、殆んど常に山地の人である。プルターク(Plutarch)は地理的關係に因つて、政治的要求の相違あることに注意し、山地のものは民衆政治

を、平原のものは寡頭政治を、沿海のものは兩者を混じたものを要求すと述べて居る。

又溪谷・河流の相交るところ、或は人々の多く相接する地勢にある地方のものは、改新や革命に傾くものである。かのポーランドに於ける叛亂は、實にスラブとチュートンとビザンチンとの民族の相交通する點に起り、フランスに於ける革命的思想も、亦實にセーヌやローンやロアーの流域に、盛に起つたのである。

人口が稠密であつて、大工業の起つて居る地方は、人口が稀薄であつて、農業を主とせる地方に比較し、革命的思想が著しく發達して居る傾向がある。狹き州又は小さき都市も、革命的性質を帶んで居ることがある、かのアルルノやレグホルンの如きはそれである。

人の健康に適するが如き地方は、天才的人物を出すこと多きと共に、革命の

發生地となることが多い。例へばロマーニャやリグリヤ等の地方は、其適例であつて、佛蘭西に於ては、一層その傾向が著しく見られて居る。

(二)異教的思想。これは人種や民族の相交通するに際して起り易く、これが爲めに住民をして進歩的若しくは革命的ならしめることは頗る多い。例へば南米の土著民と歐洲よりの殖民との交通は、南米に於て商業上にも知識上にも革命的變化を與へた。

(三)不良なる政治。民衆の公安を忘却し、善良の人士を壓迫するが如き政治は、暴動若しくは革命を起さしめるもので、かの佛蘭西に於けるルイ・フィリップが、富豪階級のみ眼中に置いて、民衆に對する同情を有せなかつた爲めに、其王朝の覆るに至つたのは、この一例である。相異つた社會階級の間に、政權に對する爭鬪あるは、要するに不平等なる結果にして、その不平等をアリストテレスは總べての革命の根源であるというて居る。中世の歐洲に於ける貴族階級又は僧侶階級の施政が、屢々叛亂や革命を起したのは、その適例である。

(四)模倣。これは叛亂の主要なる條件をなすものであつて、時には一つの國民が他の國民に倣ひ、革命の流行を來すことがある。フェラーリ(Ferrari)に依るに、一三七八年乃至一四九四年は、伊太利に於て舊王侯に對する獨立が羅馬、ゼノア、フローレンス、パレルモ、ネープルス等に於て相次いで行はれ、歐洲の人々は各處に於てこれが模倣を爲した。即ちボヘミヤの宗教上の叛亂、獨逸の自由市に於ける勞働者の革命、白耳義のゲント市に於ける納稅に關する騷擾、瑞西の獨立戰爭、瑞典竝にグロティアの農民の獨立、英國に於ける宗教運動等が、頻々として起るに至つた。

或思想が流行して、政治上又は經濟上に叛亂や革命を起すことも少くない。

即ち政治上又は經濟上に於ける特種な思想が、或機會を得て各方面に行はれ、恰も流行病の如くに各處に於て社會的變動を生ずることがある、これ又模倣に因る一つの場合である。かかる傾向は、又一國の歴史的傳説に於ても見られ、或革命的歴史を有して居る社會は、これに因て屢々革命的思想と運動とを起すことがあるのである。

其他戰爭・經濟上の危機・及び社會上の偶然の變動が原因をなして、叛亂や革命を起さしめ、又政治上の犯罪とはいはれないが、資本家に對する勞働者の同盟罷工を起さしめることもある。而してこれ等は、何れも多數人に依つて行動される場合が多く、普通の犯罪に比して、其社會上に及ぼす影響の大なるものである。

社會的傳習の反抗者　政治的犯罪者は、國民の歴史的・經濟的・政治的並に

社會的傳習換言せば、社會上の慣性と相衝突するものであつて、只に個々の法律命令に違反するものではなく、常に政治的意味の加味されて居る場合の犯罪を行ふものである。而してこれが如何なる順序を以て行はれるかは、場合に依つて必ずしも一定しては居ない。或は一二の野心家があつて、其國家の政治に反抗して暴動を起すこともあれば、或は特種な思想家なり偉人なりの感化が、次第に其社會に瀰漫して、幾年かの後に多數の人々の心を動かすに至つて、遂に革命を起すが如きこともある。けれども其反抗して動く對象は、必ずしも或特定の政治家若しくは主權者に限らない。例へば佛蘭西革命は、一の或佛蘭西國王に反抗したのではなくて、當時の佛蘭西の君主制度並に封建制度に反抗したのである。又ルーテルの宗教運動は、或一の羅馬法皇に反抗したのではなくて、羅馬カトリック教會に反抗して起つたのである。

指導者　而してこれ等の政治的犯罪の指導者は、多くは熱烈なる性情のものであつて、革命運動等に於ける中心人物となり得るものであるが、若しかかる指導者が、時の政府若しくは其他宗教上等に於ける主權者に殺害されたやうな場合には、決してこれが後繼者を絶滅せしめ得るとは限つて居ない、時には却つて益々後繼者の此運動に對する熱情を興奮せしめ、一層其運動の進歩を早からしめることがある。

次に此種の指導者若しくは運動者は、社會上の總べての階級竝に境遇より出で、決して或特殊の人々の間にのみ存するものではない。舊制度の缺陷を洞察し新制度を立てて人々の要求を滿足せしめんとする天才若しくは智者、新思想を熱烈に鼓吹する精神異常者、先天的に秩序を破壞して喜び大膽にして死を恐れざるが如き犯罪者等のみならず、高潔なる思想を有し、世の先覺者として

活動する聖者の如きも、亦其一つであるが、かかる類の人は他愛・自己犠牲の念に富み、自己の理想に殉ずるを以て樂しみとするものである。かくの如くその種類には樣々あるけれども、それ等に共通した點は、或理想に熱狂的にして、若しこれが實現に失敗するに於ては、自ら死して更に悔いないところである。

特質　さればその特質は、感情性犯罪者に頗る類する點もあるが、若しこれが社會的傳習に對しては、何事に依らず反抗するが如き一種の偏狂なる稟性を有して居るものであれば、前述の生來性犯罪者の一種と觀ても差支はない。されども若し偶〻その時代の政治が不良である爲めに、これが改善を計らんとして、熟考の末奮然時の政府に反抗するものであれば、偶發的のものというてよい。從つて必ずしも感情性犯罪者の中にのみ包含せしむることは出來ないと共に、その心身の上に特別な徵候を有して居ることもあれば、全く普通人と相

選ばざるが如きものもあるのである。但し其大部分は、感情性犯罪者の中に包含さるべきものである。

第八節　女性犯罪者

女性犯罪者は、以上述べた分類と相對立するものではない、この中に上述の各種の犯罪者があるのである。けれども婦人の身體竝に精神は、普通の男子と區別して研究すべきもので、これが犯罪と相關聯する事實に於ても、亦特種なる觀察點を必要として居る。この意味に於てロンブローゾは、グリエルモ・フェレロ(Guglielmo Ferrero)と共に特に「女性犯罪者、賣淫者竝に普通の婦人」(Donna Delinquente, la Prostitute e la Donna normale, 1903)なる一書を著して、その中に婦人の犯罪者に關して、其研究を發表して居る。

生物的觀察　女性を廣義に考察して、生物學的方面より研究するに、下等な動物に於ては、女性がその智力・體力・外貌竝に命數等何れも男性に勝つて居るが、少しく高等な動物に於てはこれに反して居る。これ卽ち高等な動物は、男性が女性を所有する爲めに、激しき競爭をなし得るやうに發達したのであつて、又一にはその子孫を養ふべき任務が女性に與へられて居るが故に、女性の心身の性質には比較的變化を與へなかつたのである。而して野蠻人の婦人は、一般に感覺鈍く、殘酷にして復讐心に富んで居るが、普通の民族の婦人に於ても觸覺・嗅覺・聽覺・視覺等何れも鈍く、道德性竝に苦痛の感が鈍い。けれどもこれが母となるに及んでは、直に溫和・他愛・先見等の作用が發達し、かくて上の缺點を補ひ、加ふるに哀憐の念を增し、殘忍性を去るに至るものである。且婦人には、解剖的・生理的・機能的竝に感覺的方面は、其變化性が男子よりも甚だ

多く、これに反し變質性・怪異性・癲癇・精神病者竝に天才は少い。

特徴　一般に婦人は男子よりも犯罪をする事少く、殊に文明國に於ては大凡男性犯罪人の四乃至五分の一であつて、重大犯罪は男子の十六分の一に過ぎない。又婦人犯罪者には變質的性格者が少い、即ち頭蓋骨異常・耳殼異常・齒列不整・毛髮異常等の變質徴候は、男性犯罪人に百中四〇乃至六〇なるに、女性犯罪人には一〇乃至二〇に過ぎない。只賣淫者に於ては解剖的竝に機能的方面共に、男子の犯罪者よりも變質性犯罪性の性格者が多く、彼等が常に安逸・怠惰竝に無作法等に對する慾求、即ち犯罪性格の滿足を得んと努めて居る點は、男子の犯罪者と共に更に選ぶところはない。婦人の犯罪者では、淫賣者と普通の犯罪者とが其大部分を占めて居るが、其中でも感情性犯罪者と偶發性犯罪者とが比較的に多くて、所謂生來性犯罪者は少く、只賣淫者の中には多くの生來性犯罪者

の特徴を有して居るものがある。これには男子の生來性犯罪者よりも恐るべき者が多く、かかるものは何れも悖德狂若しくは癲癇に屬するもので、耳・眼・齒・頭蓋・腦等に於ける異常、竝に婦人の特性の缺乏、殊に音聲・骨盤・毛髮等が男子に類して居るのみならず、女性特有の本質即ち母たるの感情をも有しないで、特別な色情昂進を有し、性格に至るまで異性と異らないことが多い。けれども婦人の感情性犯罪者や偶發性犯罪者には、母たるの感情が明かに存在し、且特別な色情昂進をも有して居ないのが普通である。

男性犯罪と女性犯罪との相違　婦人に依つて行はれる犯罪は、其行爲者の性質を異にする點より、男子に依つて行はれる犯罪と、種々なる相違を有して居る。

(一)年齢。年齢は心身の發達に著しき階梯を生じ、從つて社會の生活上にも

注意すべき種々なる關係を生ずるものであるが、殊に婦人と男子とは、年齢に因る心身の發達の狀態を異にし、且兩者の社會的關係に甚だしき相違を有し、爲めに犯罪現象にも注意すべき相違を得るのである。かくて男子に於ては、青年期・少年期に於て犯罪者多く、老年に至ると共に漸次に減少する傾向あれども、婦人に於ては、一般の犯罪は性的特徴の未だ充分に發達せざる前、卽ち十四歲以下に於て最も多く見られ、次に又年齢進みて性的特徴を失ふに至る頃、卽ち五十歲以上に於て、再び多くの犯罪者を生ずる傾向がある。但し重罪に於ては、十四歲以下は男子のやうに多くはない。換言せば同年齢者中犯罪者を出すこと比較的に多數なる時期が、男子に於ては、單に一回であるのに、婦人に於ては、二回見られるのである。ロンブローゾは、これ婦人が中年には賣春の形式に於て犯罪性を發揮するが故に、この期間に普通の犯罪者の減少を見るに至るのであるとした。

(二)罪質。男子と婦人とが、精神並に身體の性質を異にすると共に、各々罪質に特徴を生ずるのは當然のことである。ロンコロニに據れば、罪質一般の平均は男子の犯罪者一〇〇に對して、婦人の犯罪者は六であるが、此平均數より多きものに次の四種がある、卽ち贓物受領は、男子の一〇〇に對して二〇・二、墮胎と嬰兒殺は男子の一〇〇に對して四七六・八、毒殺は男子の一〇〇に對して一二二・七、放火は男子の一〇〇に對して八・六であつた。この四者は、婦人に依つて比較的多く行はれ、殊に墮胎・嬰兒殺・毒殺等に於ては、男子のそれよりも遙に多數に及んで居る。これは要するに婦人が、男子に比較して、體力・智力弱く、消極的生活をなせる爲めであつて、家庭犯罪の如きは、却つて男子よりも多くなつて居る、卽ち毒殺者の百分中九一、家庭竊盜の百分中六〇は何れも

婦人であつた。

(三)賣春。婦人の犯罪中、男子には殆んど見られないといふべきは賣春である。賣春婦の數は、何れの國に於ても極めて多數であつて、これを悉く犯罪者の中に包含せしめる時には、婦人の犯罪者數は極めて多數となるのである。ライヤン(Ryan)とタルボット(Talbot)は、賣春をなす年齢期の普通の婦人と比較して調査し、倫敦に於ては普通の女七人に對して、ハンブルグに於ては普通の女九人に對して、各一人の賣春婦あるを認めた。カスティリヨニ(Castiglioni)は、伊太利に於て調査し、同年齢の婦人百分中一八乃至三三は、賣春婦たることを認め、これの原因は、怠惰・酒精中毒・困窮であるとした。ゲリー(Guerry)は、倫敦の婦人犯罪者を研究し、その百分中八〇は三十歳以下の賣春婦で、百分中七は三十歳以上の賣春婦であつた。これを以て觀れば、婦人の犯罪が如何に年

齢の少い賣春婦に依つて行はれるかが明かである。かくて婦人の犯罪と賣春とは、極めて密接な關係を有して居る、ロカテッリは、その原因を窃盗のそれと比較して、主に個人の缺陷ある先天性に因るとなし、これに次いでは教育の不完全・貧困・惡例・孤獨等が主なもので、貞節の感なきことも注意すべきこととして居る。ロンブローゾはこれ等に附言して、無情・不感性・劇烈にして動搖する感情・怠惰等は一般の犯罪者に類して主要な賣春の原因であるとした。

(四)文明の程度。これが一般の犯罪現象に深き關係あるはいふまでもないが、殊に婦人の犯罪は、文明と共に漸次に增加する傾向がある。今文明程度の割合に低き北伊太利の犯罪者男女各一人に對し、割合に高き文明にある中部並に南部伊太利の婦人犯罪者數に比較して、次の如き結果となつた。

	中部伊太利		南部伊太利	
	男	女	男	女
殺人	5人	4人	12人	24人
脅迫	3	2	6	11
強盗	$\frac{1}{3}$	5	4	5
窃盗	$\frac{1}{4}$	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{3}{5}$
放火	$\frac{1}{3}$	2	6	6

即ち一般に文明程度の高き地方に、婦人の犯罪者多く、只窃盗に於て減少を見るのみである。

次に注意すべきは、婦人犯罪者中に頗る多數を見る墮胎と嬰兒殺とか文明を異にする地方に因りて著しき相違を有することである。即ち兩者共に、文明の高き地方では、年齢少き婦人に於て比較的に多く見られ、文明の低き地方では、

年齢の多き婦人に於て比較的に多く見られて居る。又嬰兒殺は田舍に多く、墮胎は市街地に多く見られる。ベルリンでは、嬰兒殺百七十二人中只一人に過ぎなかつたのに、墮胎は二百十六人中二十三人の多數があつた。又佛蘭西では、嬰兒殺の百分中七五は田舍で、墮胎の百分中六〇は市街地で行はれた。

第三章　犯罪の原因

第一節　犯罪の隔世遺傳的原因

犯罪なる行爲は、如何なる時代にその起原を有するか、今人類の古き歴史を溯つて考へるに、苟も記錄の存在する限りの時代に於ては、犯罪的行爲の認められて居らぬ時代は更にない。而して若し吾人が過去竝に現在に於ける野蠻未開人の生活を觀察する時には、古代には適法的行爲として觀られて、然も今日に於ては犯罪と稱して居るやうな行爲が多く見られる。

一、言語に關しての觀察

ピクテ(Pictet)に依れば、ラチイン語の「罪」(crimen)は梵語の「行爲」を表はす

karman から來て居る、尤もヴァニッェック(Vaniček)は、これを「告訴」(croemen)から來て居るというて居るが、梵語の「罪」を表はす apaz は「働」の意なる apas に相當し、又ピクテ竝にポット(Pott)は、ラティン語の「誤失」(culpa)は「爲す」「實行す」の意なる kalp に依つて居るというて居る。尙ヴァニッェックは、ラティン語の「窃取」の意なる fur の語源を、「持來る」の意なる bahr として居るが、ヘブリュー語では ganav 梵語では sten がそれに相當した語であつて、これは單に「隱す」「覆ふ」の意味である。又「海賊」(pirate)の語源なる希臘語の peirao は、「冒險する」「敢てする」の意味であり、又「隱す」とか「盜む」の意なる希臘語の chleptein は、梵語の同意味なる harp-hlap を語源と見られるとヴァニッェックはいうて居る。かくて現今の文明人が、犯罪行爲として認めて居ることは、古代に於ては全く人間生活の普通のこととして考へられて居つたものがあると、言

語の發達上から推定することが出來るのである。

二、未開人に關しての觀察

子殺　印度殊にセイロンよりヒマラヤに至る地方では、嬰兒殺を宗教上神聖なこととされ、只に無智社會のもののみでなく、自分の娘が未婚のままにあるのを不名譽と考へて居るラジュプッツなる貴族の間でも、此思想がある。又一夫多妻の習慣あるティゴピア島の住民は、女の子供よりも男の子供を多く殺して居る。マルコ・ポロ(Marco Polo)の旅行記に依れば、嬰兒殺は支那及び日本で實行され、それが人口調整の一方法と考へられて居る。かかることはブッシュメン、ホッテントット、フィジヤン等の種族には普通のことであつて、ハワイ並に亞米利加の土著民の間には、現在も尙見られるところである。宣教師の報告に依れば、タヒチ島に於ては、牛兒の三分の二は其兩親に殺害される。ダザラ(D'Azara)

は、グヮラニースの間では、母親が其女兒の多くを殺害する故に、生存者は頗る貴いものとなるといつて居る。

古代のカーセーヂ人の間では、神に捧ぐる爲めに高貴にして立派な子供を火中に投じて、犧牲にすることが行はれた。尙此種の事實は、フェニシヤ人、埃及人、波斯人、ローディヤ人、クレート人及びサイプラス人等の間にも、行はれたことである。

貞操　リディヤ人の間では、密賣春婦が甚だ多く、且つ生活が豐かであつて、アリヤットの聖廟へ彼等が獻納する供物は、藝術家と商業家との供物を合せたよりも多かつた。亞米利加の或地方では、尼僧にのみ一妻多夫を許し、又メディアでは、五人の夫を有する婦人は、甚だ名譽あるものとされて居つた。西藏に於ては、一家の男の年長者が一人の妻を娶り、それを兄弟で共有し同棲

する習慣である。トーダス人の間では、長男の妻は夫の弟が丁年となるに及んでそれ等の妻となり、又それ等の兄弟は妻の妹等と夫婦關係を結ぶに至るのである。マラバールの黑人の高等階級なるネヤースの間では、一人の婦人に對して五六人の夫を有し、十人迄に達することが出來る。

窃盗　埃及では、嘗て窃盗は認められた一つの職業であつて、此職に從はんとするものは、其姓名を公の帳簿に記載し、窃取したる物品は、或一定の場所に集められ、被害者は盗まれた物品に對して、或程度の貨幣を以て取返すやうに定められてあつた。古代獨逸人は、青年の元氣を鼓舞せんが爲めに、其隣人を侵略することを許された、その結果怠惰の習慣に陷るものが跡を絶つたといふことである。又昔の希臘人及び地中海の島嶼や海岸に住居して居る野蠻な人々は、何れも海賊を働いて、それを一つの高尚な職業と考へて居つた。スパ

ルタに於て窃盗の許されて居つたことは、有名な話であつて、その爲めに捕へられたものは處罰されることになつて居つたが、これは窃盗を行つたからでなくて、熟練を缺いた點で罰せられたのである。

ブールトン(Bourton)に依れば、東アフリカでは、强奪が名譽あることと考へられて居つた。アフリカのカラマンザでは、米作をして居る溫和なバグナヌ族に接して侵略に依つて衣食して居るバランテスといふ種族が住んで居るが、此種族のものは、自分の種族のものから物品を掠奪した時には、その行爲者を殺害するのに、他の種族より掠奪することは、却つて奬勵されて居る。而してその最も怜悧な窃盗は、窃盗なる職業を兒童に授ける爲めに雇はれ、遠征する時の先導者に選ばれるのである。

印度のザッカ・クヘル族では、この窃盗なる職業が貴いものと考へられ、男の

子供が產れると特種な儀式を行つて、窃盗的行爲に神聖な意味を附して居る。其儀式は產れ立ての男の子供を、その親の家の壁の破れ目から潜らしめ、同時に盗人になれと唱へ、其間に音樂の合奏が三度繰り返されて式が終るのである。

タシタス（Tacitus）に依れば、古代獨逸人は自分の部落以外で行つた犯罪行爲を決して耻辱とは考へなかつた。ミュルハウゼン（Müihausen）に依れば、北亞米利加のコマンチェス族の間では、何か掠奪的遠征を試みて、それに成功した者でなければ、部落の戰士として數へられるの名譽が得られない、最も怜悧な窃盗が最も尊敬すべ戰士であるとされて居る。スノー（Snow）は、南亞米利加の南端に住むパタゴニヤ人は、他の部落のものから何か掠奪しなければ、妻帶するの榮譽が得られないといひ、ダルトン（Dalton）は、クキス族では窃盗の最も秀でたものが最も崇められるといひ、又ギルムーア（Gilmour）は、蒙古では窃盗が

社會上の尊敬すべきものと考へられて居るというて居る。

かくて未開人の間に於ては、今日文明人が犯罪行爲として擯斥して居ることを認めて居るのみでなく、却つて時には社會生活上必要な且高尚なことと考へられて居る場合があるのである。

三、兒童に關しての觀察。

無教育と犯罪性　原始的野蠻人に共通な犯罪的本能は、文明人の兒童に於ても普通に見られることであつて、若し道德的教育と適當な例證とに依つて影響されなかつたならば、野蠻人と著しき相違のないやうな觀がある。かくいふと雖も教育的影響あるにあらざれば、總べての兒童が犯罪者となるといふのではない。それはマリオ・カルララ（Mario Carrara）が、カリヤリに於て觀察した例に、サルディニヤの町へ出奔して放浪生活に入り、窃盗其他の惡事を爲して居つた

少年の一團體があつた、然るにそれ等の者が丁年に達した頃には、何れも其不良習慣を自ら改めた事實があるのでも明かである。

幼年期と犯罪性　悖德狂竝に犯罪傾向の萠芽が、一般に人類の幼年期に於て現はれ、又成年者に依つて行はれる時は、惡魔と考へられるやうな情的行爲が、子供に屢現はれる事實は、餘りに普通なことである爲めに、モロー(Moreau)やペレ(Pérez)やベイン(Bain)等の學者に依つて研究される迄は、人の注意を惹かなかつた。兒童は、完全な道德の感を有して居ない點で、精神病者が悖德狂といふもの、及び刑事學者が生來性犯罪者といふものと相類して居る。

ペレはその著書(Psychologie de l'Enfant, 2nd ed., 1882)に於て、兒童がその一歳の頃は自分の氣に合はぬものを投げ・破壞し、又好まぬ人を抓き・擲つが如きは、確に野蠻人に相類して居るといつて居る。

モローも其著書(De l'Homicide chez les Enfants, 1882)に於て、兒童が直に自分の思ふままにならぬ時、激情に至る多くの場合を擧げ、其一例として或一人の怜悧なる八歳の子供は、其兩親や其他の人々に叱責された時には、假令極めて優しくいはれても、それを怒り、手近のものを取つて打ち、若し何物も無くて復讎の出來ぬ時には、手に取つたものを、何の選びもなく破壞したことを述べて居る。

又ペレは、著しく怒り易かつた女の子が、二歳に達して頗る溫和になつたといふ事實と、或二歳になる女の子が、自分と同じ人形を持つて居る他の子供を嚙まんとして、甚だしく激憤に陷り、その後三日間病氣となつた事實を擧げて居る。

ヴィタ(Vita, Guerzoni, 1880)は、七歳になる男の子が役所用の紙に作文を書

いたのを教師が笑つたといふので、その顏へインキ壺を投げつけた例を擧げて居る。

ロンブローゾ自ら觀察した六歳の男の子は、些細な叱責や矯正に因つて、極端な激憤に至つた、若し彼を怒らした人を打つことが出來れば、激憤は直に收まるけれども、これに反して若し打つことの出來ない時には、絶え間なく泣き叫び、恰も籠に入れてある熊が怒つた時にするやうに、自分の手を嚙んだ。

以上の例は、兒童が復讐に對する希望を持つて居ることの、極めて普通なことを示したものであるが、元來憤怒は人類自然の本能であつて、これを除却し去ることは出來ない、只これをよく導き、制御するに過ぎない。

兒童と德性　兒童は生後暫くの間若しくは一年の間は、道德的感情を缺いて、善惡を判斷することが出來ない。嘗て魂男の子は、ペレに「嘘言や不從順

は母が嫌ふから惡いことだ」と告げたことがある。元來兒童は、自ら何か奪はれた經驗をしなければ、正義に關する抽象的觀念若しくは所有權を理解することは出來ない。卽ち自ら被害者たる時に、特に不正を憎む傾向がある。兒童の思想では、不正といふことは、取扱の普通の仕方と偶然な仕方との不合致である、從つて從來と全く異つた境遇に置かれた時には、全然不正に對する觀念が不確實となるのである。ペレの研究した一人の子供が新しい試驗をする毎に、其態度を變更した如きは、その一例を示すものである。

愛情は兒童には精緻に發達して居ない。彼等の想像は、興味あるものに容易に捕はれ、興味を缺くやうなものに對しては、著しく反感を起すに至るものである。七歳以後に至れば、普通の事物に對して眞の愛著を現はすやうであるが、尙其母に對してすら暫時の離別は、速に母を忘れしめる傾がある。

其他神話等には、總べての犯行竝に犯罪に對する神若しくは女神が想像されて、崇拜の對象とされて居つた。

四、犯罪者と隔世遺傳

犯罪者と兒童竝に未開人　これを要するに憤怒・復讐心・怠惰・多辯・愛情等の如き普通犯罪者に見られるやうな特性が、兒童に於ても亦見られるのである。これと同時に文明人が犯罪と認める行爲が、未開人の間では許された行爲と考へられて居ることがある。かくて今日の文明人が犯罪行爲といふものは、社會的進化竝に個人的精神發達の初期には、普通に現はれる行爲といはれるのである。從つて文明社會の成年者に於ては、必ずや或割合の不法行爲者を生じて居る、これ實に隔世遺傳的現象にして、人類發達史の初期の狀態に留まつて居るものである。

且又犯罪者は、人の未開時代に見られるやうな心の狀態に自然になつて居つて、現今禁止されて居るやうな行爲を敢てするのみでなく、その他にも未開人と相類した行爲をなす傾向がある。これに關しては既に前にも述べたが、その主なるものは文身・殘酷な遊戯・賭博・特殊な隱語・象形文字や繪を畫くことなどである。犯罪者が藝術的に事物を表示することも、此一特性といふことが出來る。未開人の藝術の原始的・素朴的なることは勿論であるが、犯罪者の手技になれるものも、亦此特徴を有して居る。ロンブローゾに依つて創立された、トヲノの刑事人類學博物館には、此種の多くの標本が保存されてある。

犯罪者と隔世遺傳者　かくて犯罪者を隔世遺傳者と見做し、滅亡種族の一殘類と考へることは、決して自然界の現象に反する理論ではなく、他の生物の間にも往々見られる事實である。例へば大輪の花開く薔薇も、これを痩せた土